

No.

2023 年度 国語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	現代の国語	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年 一般コース 1～4組
使用教材	「高等学校 現代の国語」 「現代の国語 学習課題集」 「カラー版 新国語便覧」						
目 標	①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ②主体的に学習する態度を土台として、国語の基礎力である知識・技能を活用し情報を精査・解釈する力を身に付ける。 ③国語を的確に理解し、適切に表現する力を土台として、ものの見方・感じ方・自分の考えの形成に役立てる態度を養う。						

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続についてよく理解し、得られた知識を活用できている。また、文章中の情報の扱い方について理解し得られた知識を活用できている。	文章の構成や展開、表現の仕方をよく工夫し、読み手に十分な理解を与えることができている。また、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができている。情報を相互に関係づけながら書き手の意図まで解釈し、構成や論理展開を評価することができている。	個別の方法をどのように一般化しているかを進んで捉え、学習課題に沿って説明しようとしている。筆者の提言に対する自己の意見を積極的に考え、表現の仕方を工夫して書こうとしている。
	ステップ2 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続についてある程度理解できている。また、文章中の情報の扱い方について理解できている。	文章の構成や展開、表現の仕方を理解して、自分の考えをまとめることができている。また、内容や構成、論理の展開を一応捉え、要旨を把握することができている。情報を相互に関係づけ、内容を理解することができている。	個別の情報をどのように一般化しているかを進んで捉えようとしている。また、筆者の提言に対する自己の意見を書こうとしている。
	ステップ1 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続についての理解に乏しい。また、文章中の情報の扱い方についての理解に乏しい。	自分の考えをまとめることが不十分で読み手の理解を得られていない。また、内容や構成、論理の展開を捉えることができていない。情報を関連付けることによる内容な解釈に不十分な点がある。	個別の情報をどのように一般化しているかを捉えようとしていない。筆者の提言の理解、自分の考えの表明に不十分な点がある。
評価方法	授業時の観察、課題テスト 小テスト、単元テスト	定期試験、授業時の観察、 作文や小論文、発表、話し合い	授業に取り組む姿勢や意欲 課題等提出物の取り組み 自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながら A、B、C の評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、個人・集団での発表、話し合いなどを行います。自分の考えを持ち、ほかの生徒の皆さんと積極的に意見を交わしてください。また、自分の意見を文章で書いてもらいます。授業の学習内容を生かし、構成や言葉を効果的に用いて、自分の考えを論理的に述べましょう。積極的に取り組んでください。

担当者より

「文章を読む」ということは、書き手の主観的な体験を味わう(追体験する)行為です。「読む」ことを通じて、他人の眼鏡を使って世界を見ることができ、世界の見え方が変わります。「読書」は現代文の力を伸ばす方法の1つです。「文章を書く」ということは、自分の身体感覚や感じたことを、客観的な言葉を使って他者へと伝える行為です。伝えるための技術(言葉の選び方、文章の組み立て方)の習練を怠らないで下さい。現代文は「授業」が勝負です。授業の中で、普段何気なく使っている言葉に向き合い、物の見方・考え方を磨いていきましょう。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	・授業ガイダンス ・図書館ガイダンス	2	すべての単元を通じて、文章の要旨を理解し、その意見について自分の考えを書いたり話したりすることで他者と言葉を通じて伝え合う多様な言語活動を展開する。また、(現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を含めた)他の文章と読み比べ、内容や表現の仕方について感想を述べたり批評したりすることで、自分の考えを形成するトレーニングを行う。	
	「生きもの」として生きる 中村 桂子	4	・筆者の提案する人間の生き方について、自分に照らして考えを深める。 ・対比による文章把握を行い、要旨を理解できる。 ・自分が生活の中で持ち得る「生き物としての感覚」をあげ、それが生き方や社会を変えるどのような切り口になりえるか、文章にまとめる(書く)。	
5	「水の東西」 山崎 正和	4	・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化にみられる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ・内容や構成、論理の展開を的確にとらえ、要旨を把握する。 ・文章の要約を書くことができる。	
	<前期中間試験Ⅰ>	1		
6	論理分析 対比 「間」の感覚高階秀爾 7月模試対策	8	・日本と西欧の住居構造における対比関係を用いながら、内と外の区別という観点を導き出し、さらに日本人の意識の中にある内と外の二重の対比構造を論じる叙述の方法を把握する。 ・内容や構成、論理の展開を的確にとらえ、要旨を把握する。 ・文章の要約を書くことができる。 ・7月記述模試に向けて、過去問を用いて論理的文章の演習を行う。	
	<前期中間試験Ⅱ>	1		
7・8	「ものことば」 鈴木 孝夫 読書指導・感想文指導	6	・具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解する。 ・言葉が認識や思考を支えることについて、他のテキストと読み合わせて、説明の仕方を工夫して、理解したこと を報告しようとしている(書く)。 ・文章の要約を書くことができる。 ・読書感想文コンクールで入賞した作品を読み、自分の作品に生かすようにする。 ・夏休みに向けて、自分で感動した本を友達に紹介する(話す)。	
		1		
9	「文化」としての科学 池内 了	5	・筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解する。 ・文章の要約を書くことができる。	
	<前期期末試験>	1		
10	書き方の基礎レッスン	6	・原稿用紙の使い方や言葉の使い方を学び、自分が文章を書く際に生かせるようにする。 ・指定された文章を要約することができる(書く)。 ・自分の意見と対立する意見を利用して、自分の意見を述べることができる(話す)。 ・意見文の書き方を理解し、実践する(書く)。 ・書いた文章を進んで批評し、批評を踏まえて、文章の構成・展開や表現を工夫する(話す)。	
	社会に対する意見文を書く			
11	フェアな競争 内田 樹 11月模試対策	8	・筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、「社会的共通資本」と「フェアな競争」との関係を押さえる。 ・現代社会や政治について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する(書く)。 ・本文を要約する(書く)。 ・本文で示された哲学者の実績について粘り強く調べ、内容のかかりがわかるようにまとめる(書く)。 ・「私作りとプライバシー」を読み、「事実」と「意見」についての考えを深める。 ・11月記述模試に向けて、過去問を用いて論理的文章の演習を行う。	
	<後期中間試験>	1		
12	実用的な手紙文 1月模試対策	8	・実用的な手紙文として、一般的ないあいさつ文を学び、手紙の形式を学ぶ。 ・はがきの書き方を学び、年賀状を書く(書く) ・1月記述模試に向けて、過去問を用いて論理的文章の演習を行う。	
1	不均等な時間 内山 節 <後期期末試験>	5	・具体的事例から一般論への展開と、対比構造とを手掛かりとし、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 ・近代における時間について述べた文章を読み、自分の意見や考えを述べる(話す)。 ・本文を要約する。 ・既習の評論と粘り強く読み比べ、持続可能な社会に関する意見文を書く(書く)。	
2・3		4		
合計時数		65		

科目	現代の国語	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年 探究コース 5組
使用教材	『高等学校 現代の国語』 「現代の国語 学習課題集」 「カラー版 新国語便覧」						

目 標	①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ②主体的に学習する態度を土台として、国語の基礎力である知識・技能を活用し情報を精査・解釈する力を身に付ける。 ③国語を的確に理解し、適切に表現する力を土台として、ものの見方・感じ方・自分の考えの形成に役立てる態度を養う。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	ステップ3 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続についてよく理解し、得られた知識を活用できている。また、文章中の情報の扱い方について理解し得られた知識を活用できている。	文章の構成や展開、表現の仕方をよく工夫し、読み手に十分な理解を与えることができている。また、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができている。情報を相互に関係づけながら書き手の意図まで解釈し、構成や論理展開を評価することができている。	個別の方法をどのように一般化しているかを進んで捉え、学習課題に沿って説明しようとしている。筆者の提言に対する自己の意見を積極的に考え、表現の仕方を工夫して書こうとしている。
	ステップ2 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続についてある程度理解できている。また、文章中の情報の扱い方について理解できている。	文章の構成や展開、表現の仕方を理解して、自分の考えをまとめることができている。また、内容や構成、論理の展開を一応捉え、要旨を把握することができている。情報を相互に関係づけ、内容を理解することができている。	個別の情報をどのように一般化しているかを進んで捉えようとしている。また、筆者の提言に対する自己の意見を書こうとしている。
	ステップ1 本文中の常用漢字・語句・語彙・文章の組み立てや接続についての理解に乏しい。また、文章中の情報の扱い方についての理解に乏しい。	自分の考えをまとめることが不十分で読み手の理解を得られていない。また、内容や構成、論理の展開を捉えることができていない。情報を関連付けることによる内容な解釈に不十分な点がある。	個別の情報をどのように一般化しているかを捉えようとしていない。筆者の提言の理解、自分の考えの表明に不十分な点がある。
評価方法	定期試験、授業時の観察、課題テスト、小テスト	定期試験、授業時の観察、作文や小論文、発表、話し合い、課題テスト、小テスト	授業に取り組む姿勢や意欲 課題等の取り組み 自己評価シート

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、個人・集団での発表、話し合いなどを行います。自分の考えを持ち、ほかの生徒の皆さんと積極的に意見を交わしてください。また、自分の意見を文章で書いてもらいます。授業の学習内容を生かし、構成や言葉を効果的に用いて、自分の考えを論理的に述べましょう。積極的に取り組んでください。

担当者より

「文章を読む」ということは、書き手の主観的な体験を味わう(追体験する)行為です。「読む」ことを通じて、他人の眼鏡を使って世界を見ることができ、世界の見え方が変わります。「読書」は現代文の力を伸ばす方法の1つです。「文章を書く」ということは、自分の身体感覚や感じたことを、客観的な言葉を使って他者へと伝える行為です。伝えるための技術(言葉の選び方、文章の組み立て方)の習練を怠らないで下さい。現代文は「授業」が勝負です。授業の中で、普段何気なく使ってる言葉に向き合い、物の見方・考え方を磨いていきましょう。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	・授業ガイダンス ・図書館ガイダンス	2	すべての単元を通じて、文章の要旨を理解し、その意見について自分の考えを書いたり話したりすることで他者と言葉を通じて伝え合う多様な言語活動を展開する。また、(現代の社会生活が必要とされている実用的な文章を含めた)他の文章と読み比べ、内容や表現の仕方について感想を述べたり批評したりすることで、自分の考えを形成するトレーニングを行う。	
	「生きもの」として生きる 中村 桂子	4	・筆者の提案する人間の生き方について、自分に照らして考えを深める。 ・対比による文章把握を行い、要旨を理解できる。 ・自分が生活の中で持ち得る「生き物としての感覚」をあげ、それが生き方や社会を変えるどのような切り口になりえるか、文章にまとめる(書く)。	
5	「水の東西」 山崎 正和	4	・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化にみられる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ・内容や構成、論理の展開を的確にとらえ、要旨を把握する。 ・文章の要約を書くことができる。	
	<前期中間試験Ⅰ>	1		
6	論理分析 対比 「間」の感覚高階秀爾 7月模試対策	8	・日本と西欧の住居構造における対比関係を用いながら、内と外の区別という観点を導き出し、さらに日本人の意識の中にある内と外の二重の対比構造を論じる叙述の方法を把握する。 ・内容や構成、論理の展開を的確にとらえ、要旨を把握する。 ・文章の要約を書くことができる。 ・7月記述模試に向けて、過去問を用いて論理的文章の演習を行う。	
	<前期中間試験Ⅱ>	1		
7・8	「ものことば」 鈴木 孝夫 読書指導・感想文指導	6	・具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解する。 ・言葉が認識や思考を支えることについて、他のテキストと読み合わせて、説明の仕方を工夫して、理解したこと を報告しようとしている(書く)。 ・文章の要約を書くことができる。 ・読書感想文コンクールで入賞した作品を読み、自分の作品に生かすようにする。 ・夏休みに向けて、自分で感動した本を友達に紹介する(話す)。	
		1		
9	「文化」としての科学 池内 了	5	・筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解する。 ・文章の要約を書くことができる。	
	<前期期末試験>	1		
10	書き方の基礎レッスン	6	・原稿用紙の使い方や言葉の使い方を学び、自分が文章を書く際に生かせるようにする。 ・指定された文章を要約することができる(書く)。 ・自分の意見と対立する意見を利用して、自分の意見を述べることができる(話す)。 ・意見文の書き方を理解し、実践する(書く)。 ・書いた文章を進んで批評し、批評を踏まえて、文章の構成・展開や表現を工夫する(話す)。	
	社会に対する意見文を書く			
11	フェアな競争 内田 樹 11月模試対策	8	・筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、「社会的共通資本」と「フェアな競争」との関係を押さえる。 ・現代社会や政治について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する(書く)。 ・本文を要約する(書く)。 ・本文で示された哲学者の実績について粘り強く調べ、内容のかかりがわかるようにまとめる(書く)。 ・「私作りとプライバシー」を読み、「事実」と「意見」についての考えを深める。 ・11月記述模試に向けて、過去問を用いて論理的文章の演習を行う。	
	<後期中間試験>	1		
12	実用的な手紙文 スピーチで自分を伝える 1月模試対策	8	・実用的な手紙文として、一般的なあいさつ文を学び、手紙の形式を学ぶ。 ・はがきの書き方を学び、年賀状を書く(書く) ・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 ・他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。 ・1月記述模試に向けて、過去問を用いて論理的文章の演習を行う。	
1	不均等な時間 内山 節 <後期期末試験>	5	・具体的事例から一般論への展開と、対比構造とを手掛かりとし、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 ・近代における時間について述べた文章を読み、自分の意見や考えを述べる(話す)。 ・本文を要約する。 ・既習の評論と粘り強く読み比べ、持続可能な社会に関する意見文を書く(書く)。	
2・3		4		
合計時数		65		

No.

2023 年度 国語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	言語文化	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年 一般コース 1～4組
使用教材	『高等学校 言語文化』『言語文化 学習課題集』『体系古典文法 九訂版』『古典文法 要点整理ノート』『カラー版 新国語便覧』『高等学校 現代の国語』						

目 標	①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して、他者や社会と関わろうとする態度を養うことができる。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ 3 我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙についてよく理解し、得られた知識を活用できている。また、文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化についてよく理解し、さらに本文以外の意味や用法についても知識を深めている。	古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを十分に把握している。また、文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方について根拠をもって説明できている。	積極的に古典作品を読み味わい、作品に表れた登場人物の心情や、作者の批評・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。
	ステップ 2 我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙についてある程度理解できている。文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解している。	古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを把握している。また、作品の内容や展開を捉え、作品に表れているものの見方や考え方を理解できている。	積極的に古典作品を読み味わい、作品に表れた登場人物の心情や、作者の批評・教訓・感動などを読み取り、考えたことを伝え合おうとしているが、不十分なところがある。
	ステップ 1 我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙についての理解に乏しい。文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化についての理解に乏しい。	千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを把握していない。また、作品の内容や展開を捉えることができていない。	積極的に古典作品を読み味わう姿勢や、作品に表れた登場人物の心情や、作者の批評・教訓・感動などの理解に乏しいため、作品に対する自分の考えを持っていない。
評価方法	定期試験、授業時の観察、音読課題テスト、小テスト	定期試験、授業時の観察、音読課題テスト、小テスト	授業に取り組む姿勢や意欲 課題等の取り組み 自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、個人・集団での発表、話し合いなどを行います。自分の考えを持ち、ほかの生徒と積極的に話し合いを行ってください。また、「漢文音読」を適宜行います。こちらも評価に入りますので、指定された時期に行ってください。

担当者より

古典は古くて新しい文章です。伝統的な価値観に触れながら、自分自身のものの考え方を深め豊かにしていきたいと思います。必ず予習をした上で授業に臨みましょう。古典は「予習」が勝負です。自分で分かったところと分からないところを「分ける」ことが「予習＝学習」です。自分の身になるように予習してください。復習も大切です。音読を繰り返すことで、古文特有のリズムや言い回しを体得できます。古文単語や文法事項は繰り返し繰り返し学習して確実に身につけて下さい。1年生の古文の学習で身に付いたことが3年間の土台になります。文学的な文章を読む土台を作り、先人たちから受け継がれてきた古典を味わいましょう。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	授業ガイダンス 「児のそら寝」 歴史的仮名遣い 辞書の引き方 品詞の理解	6	すべての単元を通じて、文章の要旨を理解し、その意見について自分の考えを書いたり話したりすることで他者と言葉を通じて伝え合う多様な言語活動を展開する。また、日本語の特性を理解し、言葉を通して日本文化に触れながら、当時の人々と私たちとの考え方の差異を理解し、表現できるようにする。 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話の面白さや人間描写の巧みさを知る。 ・時間の経過による「児」の心理を理解する。 ・歴史的仮名遣いを使って本文を読むことができる。 ・古典文法における品詞の分類の仕方を学ぶ。	
5	動詞の理解	4	・動詞の活用形や活用の種類を学び、自分で動詞を見分けられるようにする。 ・文章内で使用される動詞の活用形を学び、今後学ぶ助動詞への理解につなげる。	
	<前期中間試験Ⅰ>	1		
6	「検非違使忠明」 形容詞・形容動詞の理解 「夢十夜」	8	・古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形の面白さを読み取る。 ・説話から良秀の特異な言動を読み取り、内容や展開を的確に捉える。 ・形容詞・形容動詞の活用形や活用の種類を学び、自分で形容詞・形容動詞を見分けられるようにする。	
	<前期中間試験Ⅱ>	1	・「夢」という非日常性を持った世界において、自分は何を根拠の判断としているのかを読み解くなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・話の面白さを理解し、その内容を相手に伝えられるようにする。	
7・8	『徒然草』 「丹波に出雲といふ所あり」 ※夏期講習(5) 助動詞の学習 ※漢文音読①	5	・思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・用言の復習をしながら、活用の種類や活用形を見分けられるようにする。 ・基本的な助動詞を学び、その意味や活用の仕方を覚える。	
		2		
9	『徒然草』 「ある人弓射ることを習ふに」	5	・思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・用言の復習をしながら、活用の種類や活用形を見分けられるようにする。 ・基本的な助動詞を学び、その意味や活用の仕方、識別の方法を覚える。	
	<前期期末試験Ⅱ>	1		
10	漢文の基礎 「漢文の構造」「訓読の仕方」 「置き字」「返り点」「書き下し文」 「再読文字」・漢和辞典の引き方 「漁父の利」 漢文音読③	6	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 ・「漢文の構造」「返り点」「書き下し文」といった基本事項を身に付ける。 ・漢文の読みに慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・故事成語の意味を積極的に調べ、調べた内容を工夫してまとめる。	
11	故事成語 「狐借虎威」・「雑説」 漢文音読④ 11月模試対策	8	・漢文の読みに慣れ、本文の論理展開と構成を理解する。 ・比喩(隠喩)表現の表す意味を理解する。	
	<前期中間試験>	1	・11月模試に向けて、文学的文章の演習を行う。	
12	『羅生門』 漢文音読⑤	6	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・内容の解釈を踏まえて粘り強く下人の行為を評価し、表現の仕方を工夫して書こうとしている。 ・『羅生門』のもとになった文章を読み、その違いを理解し、表現することができる。	
	『伊勢物語』 「芥川」 ※冬期特別授業(5)	2	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・絵画資料と照らし合わせながら、解釈を深める。 ・助動詞を生かした現代語訳ができるようにする。	
1	『伊勢物語』 「東下り」	5	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・絵画資料と照らし合わせながら、解釈を深める。 ・助動詞を生かした現代語訳ができるようにする。 ・和歌の修辞技法を学び、解釈を深める。	
2・3	『土佐日記』 「門出」 漢文音読⑥	4	・わが国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。 ・女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・1年で学んだ文法事項を駆使して、文章を分析的に読めるようにする。	
	<後期期末試験> ※春期特別授業(4) 「臥薪嘗胆」		・長めの漢文を扱うことで、漢文に慣れるようにする。 ・やや長めの史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取る。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確にとらえる。	
合計時数		65		

No.

2023 年度 国語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	言語文化	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年 探究コース 5組
使用教材	『高等学校 言語文化』『言語文化 学習課題集』 「体系古典文法 九訂版」「古典文法 要点整理ノート」 「カラー版 新国語便覧』『高等学校 現代の国語』						

目 標	①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して、他者や社会と関わろうとする態度を養うことができる。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ 3 我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙についてよく理解し、得られた知識を活用できている。また、文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化についてよく理解し、さらに本文以外の意味や用法についても知識を深めている。	古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを十分に把握している。また、文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方について根拠をもって説明できている。	積極的に古典作品を読み味わい、作品に表れた登場人物の心情や、作者の批評・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。
	ステップ 2 我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙についてある程度理解できている。文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解している。	古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを把握している。また、作品の内容や展開を捉え、作品に表れているものの見方や考え方を理解できている。	積極的に古典作品を読み味わい、作品に表れた登場人物の心情や、作者の批評・教訓・感動などを読み取り、考えたことを伝え合おうとしているが、不十分なところがある。
	ステップ 1 我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙についての理解に乏しい。文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化についての理解に乏しい。	千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを把握していない。また、作品の内容や展開を捉えることができていない。	積極的に古典作品を読み味わう姿勢や、作品に表れた登場人物の心情や、作者の批評・教訓・感動などの理解に乏しいため、作品に対する自分の考えを持っていない。
評価方法	定期試験、授業時の観察、音読課題テスト、小テスト	定期試験、授業時の観察、音読課題テスト、小テスト	授業に取り組む姿勢や意欲 課題等の取り組み 自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、個人・集団での発表、話し合いなどを行います。自分の考えを持ち、ほかの生徒と積極的に話し合いを行ってください。また、「漢文音読」を適宜行います。こちらも評価に入りますので、指定された時期に行ってください。

担当者より

古典は古くて新しい文章です。伝統的な価値観に触れながら、自分自身のものの考え方を深め豊かにしていきたいと思います。必ず予習をした上で授業に臨みましょう。古典は「予習」が勝負です。自分で分かったところと分からないところを「分ける」ことが「予習＝学習」です。自分の身になるように予習してください。復習も大切です。音読を繰り返すことで、古文特有のリズムや言い回しを体得できます。古文単語や文法事項は繰り返し繰り返し学習して確実に身につけて下さい。1年生の古文の学習で身に付いたことが3年間の土台になります。文学的な文章を読む土台を作り、先人たちから受け継がれてきた古典を味わいましょう。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	授業ガイダンス 「児のそら寝」 歴史的仮名遣い 辞書の引き方 品詞の理解	6	すべての単元を通じて、文章の要旨を理解し、その意見について自分の考えを書いたり話したりすることで他者と言葉を通じて伝え合う多様な言語活動を展開する。また、日本語の特性を理解し、言葉を通して日本文化に触れながら、当時の人々と私たちとの考え方の差異を理解し、表現できるようにする。 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話の面白さや人間描写の巧みさを知る。 ・時間の経過による「児」の心理を理解する。 ・歴史的仮名遣いを使って本文を読むことができる。 ・古典文法における品詞の分類の仕方を学ぶ。	
5	動詞の理解	4	・動詞の活用形や活用の種類を学び、自分で動詞を見分けられるようにする。 ・文章内で使用される動詞の活用形を学び、今後学ぶ助動詞への理解につなげる。	
	<前期中間試験Ⅰ>	1		
6	「検非違使忠明」 形容詞・形容動詞の理解 「夢十夜」	8	・古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形の面白さを読み取る。 ・説話から良秀の特異な言動を読み取り、内容や展開を的確に捉える。 ・形容詞・形容動詞の活用形や活用の種類を学び、自分で形容詞・形容動詞を見分けられるようにする。	
	<前期中間試験Ⅱ>	1	・「夢」という非日常性を持った世界において、自分は何を根拠の判断としているのかを読み解くなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・話の面白さを理解し、その内容を相手に伝えられるようにする。	
7・8	『徒然草』 「丹波に出雲といふ所あり」 ※夏期講習(5) 助動詞の学習 ※漢文音読①	5	・思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・用言の復習をしながら、活用の種類や活用形を見分けられるようにする。 ・基本的な助動詞を学び、その意味や活用の仕方を覚える。	
		2		
9	『徒然草』 「ある人弓射ることを習ふに」	5	・思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・用言の復習をしながら、活用の種類や活用形を見分けられるようにする。 ・基本的な助動詞を学び、その意味や活用の仕方、識別の方法を覚える。	
	<前期期末試験Ⅱ>	1		
10	漢文の基礎 「漢文の構造」「訓読の仕方」 「置き字」「返り点」「書き下し文」 「再読文字」・漢和辞典の引き方 「漁父の利」 漢文音読③	6	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 ・「漢文の構造」「返り点」「書き下し文」といった基本事項を身に付ける。 ・漢文の読みに慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・故事成語の意味を積極的に調べ、調べた内容を工夫してまとめる。	
11	故事成語 「狐借虎威」・「雑説」 漢文音読④ 11月模試対策	8	・漢文の読みに慣れ、本文の論理展開と構成を理解する。 ・比喩(隠喩)表現の表す意味を理解する。	
	<前期中間試験>	1	・11月模試に向けて、文学的文章の演習を行う。	
12	『羅生門』 漢文音読⑤	6	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・内容の解釈を踏まえて粘り強く下人の行為を評価し、表現の仕方を工夫して書こうとしている。 ・『羅生門』のもとになった文章を読み、その違いを理解し、表現することができる。	
	『伊勢物語』 「芥川」「筒井筒」 ※冬期特別授業(5)	2	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・絵画資料と照らし合わせながら、解釈を深める。 ・助動詞を生かした現代語訳ができるようにする。	
1	『伊勢物語』 「東下り」	5	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・絵画資料と照らし合わせながら、解釈を深める。 ・助動詞を生かした現代語訳ができるようにする。 ・和歌の修辞技法を学び、解釈を深める。	
2・3	『土佐日記』 「門出」 漢文音読⑥	4	・わが国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。 ・女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・1年で学んだ文法事項を駆使して、文章を分析的に読めるようにする。	
	<後期期末試験> ※春期特別授業(4) 「臥薪嘗胆」		・長めの漢文を扱うことで、漢文に慣れるようにする。 ・やや長めの史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取る。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確にとらえる。	
合計時数		65		

科目	地理総合	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年次全クラス
使用教材	地理総合(東京書籍) 新鮮高等地図(帝国書院) 地理総合ワークノート(東京書籍)						

目 標	① 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。 ② 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題解決に向けて構想する力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論する力を養います。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理的な課題の解決に向けて考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	ステップ2 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。また、関連する事象と結びつけることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などが深まっている。
	ステップ1 教科書本文に記されている基本事項・重要語句を理解することができる。	授業で説明されている内容の重要性を知り地図帳で場所を捉えることができる。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。グループワークや作業の指示に素早く反応し、対応することができる。
評価方法	授業時の観察 定期試験	授業時の観察 定期試験 課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲 授業ノートの取り組み ルーブリックでの自己評価

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA・B・Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

- 基本的には教科書を順番に進めていきますが、その中で身近な地域レベルから都道府県レベル、世界レベルと視野を広げて学習していきます。プリントやノートを使用しますが、タブレットを使用して地図や画像を確認することもありますので、chromebookは必ず充電しておいてください。
- 内容によってグループ学習やレポート作成、発表などを行うことがあります。

担当者より

- 地理での学びで最も大事なことは「想像力」です。世界の遠い地域で起きている事象でも、その地域で暮らす人々の願いや課題を学び理解を深めることこそ、国際理解の第一歩であると思います。地図帳や資料集等最大限に活用しながらイメージを膨らませて学習に臨みましょう。
- 防災の分野では、身近な地域の特色を理解しながら、防災・減災の観点から主体的に学び、実践できる力をつけましょう。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界	19 (5)	○世界各地における、太陽高度や昼夜の時間の季節変化と標準時を確認し、緯度や経度との関係について考えます。地軸の傾きや自転・公転による影響を理解します。 ○地図にはさまざまな種類が存在することについて理解します。 ○地球を平面の地図では正確に表現できないことを理解し、地図の種類に応じた用途の多様性を考えます。	
5	第2章 地図や地理情報システムの役割	(6)	○私たちの生活にさまざまな地図が利用されていることを理解します。 ○多様な地図が生活を便利にしていることを理解し、地図利用のさまざまな可能性を考えます。 ○主題図にはさまざまな表現方法があることを理解します。 ○主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けのかを考察します。 ○地理情報システム(GIS)が幅広い分野で使われていることについて理解します。 ○GISとは何かを理解し、私たちの生活への影響を考えます。	
6	第3章 資料から読み取る現代世界 (前期中間試験Ⅱ)	(8)	○流線図の作成や統計の読み取りを通じて、グローバルな結び付きの変化や、各種交通手段の特徴について考察します。 ○情報通信技術(ICT)の普及状況の推移や地域的な傾向を読み取ったうえで、情報通信技術の普及にともなう利点と課題を考察します。	
7 ・ 8	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解	13 (6)	○地域によって文化が異なる理由について理解します。 ○文化は持続することもある一方で、変容することもあることを理解します。 ○世界の宗教の分布について理解します。 ○宗教ごとに特徴的な生活習慣や規範があることを理解します。	
9	2節 生活文化と自然環境 ①地形 3節 生活文化と自然環境 ②気候 (前期期末試験)	(7)	○山地におけるさまざまな暮らしの工夫について理解します。 ○山地における自然的・文化的なめぐみに気づき、その利用について理解します。 ○河川がつくる平野の小地形について理解します。 ○宅地化による伝統的な土地利用の変化が、どのような影響をもたらしているかを理解します。 ○さまざまな海岸の地形とその利用について理解します。 ○海岸の地形が自然的、人為的要因によって変化していることを理解します。 ○大気の大循環によって生じる気圧帯について理解します。 ○気温や降水量に地域差が生じる原因を理解し、それらが衣食住に与える影響を考えます。	
10	4節 生活文化と産業	15 (7)	○自然環境の面から、食生活の地域差について理解します。 ○社会環境の面から、農業形態の地域差について理解します。 ○食文化に多様性が生じる理由について理解します。	
11	第2章 さまざまな地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題 (後期中間試験)	(8)	○環境問題の発生が、人間の活動によって引き起こされていることを理解します。 ○生産・消費活動により環境問題が発生することを理解し、解決に向けた取り組みを考えます。 ○森林の減少や砂漠化の進行について理解します。 ○森林の減少や砂漠化が人間の活動によって引き起こされていることを理解し、改善に向けた取り組みを考えます。	
12	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色	17 (11)	○地球規模で取り組むべき課題が、相互に関連しあっていることを理解します。 ○先進国と発展途上国の対立などの課題があることを理解し、持続可能な開発のための解決法を考えます。 ○日本の地形の特徴について理解します。 ○日本の地形の特徴が河川や海岸の特徴にどのような影響を与えているかを理解します。	
1			○地球規模で取り組むべき課題が、相互に関連しあっていることを理解します。 ○先進国と発展途上国の対立などの課題があることを理解し、持続可能な開発のための解決法を考えます。 ○日本の地形の特徴について理解します。	
2 ・ 3	2節 さまざまな自然災害と防災 (後期期末試験)	(6)	○ハザードマップを利用し、身近な地域の自然災害の可能性を読み取ります。 ○季節によって発生しやすい気象災害の要因・影響について考えます。 ○大雨や集中豪雨によって発生する洪水災害はどのように発生するのか、その原因について理解します。 ○土砂災害の発生のメカニズムを理解し、どのような場所が被害を受けやすいかを考えます。 ○都市型災害の要因・影響を考え、都市型災害が発生した際にどのような行動をとるべきかを考えます。 ○大規模災害への対応について、自助・共助・公助の視点からどのようなことが行われているか理解します。 ○これまでの災害の教訓を生かし、特に自助・共助に関して、どのような対策を講じていくべきかを考えます。	
	合計時数	64		

科目	歴史総合	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年次全クラス
使用教材	明解 歴史総合(帝国書院) ダイアログ歴史総合(第一学習社)						

目 標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を身につけ、課題を探究する活動を通して、広い視野にもち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成することを目指す。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 基本事項・重要語句を用いて、近現代史の出来事やその背景を説明することができる。	現代の生活に反映されている事象を考察し、歴史上の出来事が現代社会と将来に結びつけることができる。	「地球市民」の一員としての自覚を持ち、問題解決の一助として、近現代史からの学びを活用することができる。
	ステップ2 近現代史の基本事項・重要語句を理解し、関連する事象と結びつけることができる。	「タテの歴史観」のみの考察から「ヨコとの連関」に視点を広げ、共通性を表現することができる。	教科書のみならず副教材からも関連する資料を見いだし、与えられた課題に取り組むことができる。
	ステップ1 教科書本文に記されている基本事項・重要語句を理解することができる。	授業で説明されている内容の重要性を知り、年代順に伝えることができる。	担当者の指示や講義に耳を傾け、素早く反応することができる。
評価方法	授業時の観察 定期試験	授業時の観察 定期試験 課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲 授業ノートの取り組み ルーブリックでの自己評価

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

授業プリント等を用いて事前学習に取り組んでから、講義・解説を挟み、グループワーク等によって主体的な学びを目指す授業形態となります。

担当者より

歴史は、日本史・世界史を問わず、人がその場所で生活していった証です。当時の人々が何を考え、何を求めて生きていたのかを想像してみましょう。人の気持ちを汲み取れるかどうか、興味・関心の度合いと理解度の違いを生むことになるでしょう。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結び付く世界	20 (5)	18世紀の日本やアジア、ヨーロッパは、それぞれどのように結び付いていたのかを理解する。 主に18世紀のアジアとその中の日本について学んでいくが、18世紀アジア諸国の間では様々な商品がやり取りされていたことを学ぶ。また、この時代には、ヨーロッパもアジアの交易ネットワークの中に入り込んできていることにも視野を広げる。	
5	2章 欧米諸国における近代化	(6)	欧米でおこった市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したのかを理解する。 主に18世紀後半から19世紀前半の欧米諸国について学ぶ。この頃から国王や特権階級の支配に対して人々が立ち上がり、それまでなかった権利を保障する仕組みを作り上げていくことに注目する。	
6	3章 近代化の進展と国民国家形成	(9)	近代化が進む中で、欧米諸国はどのような国家を形成していったのかを理解する。 主に19世紀後半の欧米諸国について学ぶ。この頃から欧米諸国が近代化を経験し、ヨーロッパのそれぞれの国で自分たちの国のあり方を模索していく様子に着目する。	
7 ・ 8	(前期中間試験) 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国	13	(5) 近代化した欧米諸国の進出に、アジア諸国や日本はどのように対応したのかを理解する。 主に19世紀後半のアジア諸国について学ぶ。この頃から近代化を経験した欧米諸国がアジア各地に進出していき、それに対してアジア各地で様々な対応がなされることとなった様子に着目して学ぶ。	
9	5章 近代化が進む日本と東アジア	(8)	日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化していたのかを理解する。 主に19世紀後半の日本と東アジアについて学ぶ。この頃から日本は欧米諸国との関係のあり方を大きく変化させていくことに着目する。	
10	(後期期末試験) 3部 国際秩序の変化や大衆化への問い 1章 第一次世界大戦と日本の対応	15 (7)	第一次世界大戦は、日本を含む世界の人々にとってどのような戦争になったのかを理解する。 20世紀初頭に起こった第一次世界大戦について学ぶ。国民はどう関わり、国民の位置づけがどのように変化してくのかに着目する。	
11	2章 国際協調と大衆社会の広がり	(8)	欧米や日本など、世界各地に広まった大衆化とは、どのようなものだったかを理解する。 戦間期とよばれる、1920年代を中心に学ぶ。この時代には、第一次世界大戦を反省して新たな国際秩序が形成され、大量生産や大量消費などの現在まで続く大衆社会も生まれてくる。その様子に注目して学ぶ。	
12	(後期中間試験) 3章 日本の行方と第二次世界大戦	17 (11)	大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのかを理解する。 世界恐慌から第二次世界大戦が終結するまでの流れを中心に学ぶ。戦争に至るまでの動きや戦争に対して当時の人々はどのように関わっていたのか、その様子に注目して学ぶ。	
1 ・ 2 ・ 3	第4章 再出発する世界と日本 (後期期末試験)	(6)	第二次世界大戦を経て、国際秩序はどのように変化したのかを理解する。 第二次世界大戦終結後から日本が独立を回復するまでの流れを中心に学ぶ。戦争を経て、どのような国際秩序や国際関係が形成されたのか、その中で日本はどのように変化したのか、その様子に注目して学ぶ。	
合計時数		65		

No.

科目	数学 I	単位数	3	週時間数	3	年次・コース・組	1 年次・一般
使用教材	教科書: NEXT 数学 I 問題集: CONNECT 数学 I + A						

目 標	数と式、2 次関数、集合と論証、図形と計量、データの分析について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を身につける。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ 3 ↑ 公式・定理を体系的に理解し、問題の解決に向けてそれらを有効に活用することができる	身の回りの事象から問題を見だし、様々な角度から考察し、解決することができ、それらを論理的に表現できる。	様々な問題に幅広く目を向け、その解決に向け、数学的論拠に基づき積極的に取り組むことができる。
	ステップ 2 基本的な公式、定理を複数結びつけて考えることができる。	身の回りの事象の解決に数学的考察を取り入れることができ、それらを的確に表現できる。	基本的な知識を組み合わせ、論理的に問題の解決に向け取り組むことができる。
	ステップ 1 基本的な公式、定理を用いて問題を考えることができる。	身の回りの事象に数学的考察が用いられることを知り、それらを表現することができる。	なぜその解法で解けるのか疑問を持って取り組むことができる。
評価方法	授業時の観察、定期試験、ホップテスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、ホップテスト、課題テスト、課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲、課題の提出状況、振り返りシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながら A、B、C の評価をし、またそれを基に 5 段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、グループ学習、各自の解法の発表会などを行い、自ら進んで参加していく授業形態となります。

担当者より

プリント学習では穴埋めなど予習をして臨むこと。予習してくることで授業では、その内容をより深く考えながら受けることができます。復習を行い確実に知識や技能を定着させること。課題は日々出題されるので、それらを利用し、効率よく復習を行って下さい。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	1章 数と式 1. 式の計算	19 (7)	多項式、単項式の用語を理解し、目的に応じて式を多角的に捉えたり、展開や変形する力を養う。また、式を整理したり、置き換えを用いて因数分解の様々なやり方を学ぶ。	
5	2. 実数 (前期中間試験Ⅰ)	(5)	自然数、整数、有理数、無理数、実数の意味を理解し、根号のついた式の有理化や絶対値の意味、処理の仕方を学ぶ。	
6	3. 1次不等式 3章 2次関数 1. 2次関数とグラフ (前期中間試験Ⅱ)	(7) 28 (8)	不等号の持つ意味を理解し、1次不等式の解法を学ぶ。更に連立不等式の解法に拡張する。 2次関数の特徴を理解し、式を変形し頂点を求め、そのグラフ(放物線)を書くことを学ぶ。	
7	2. 2次関数の値の変化	(7)	2次関数のグラフを利用して関数の最大値、最小値を求めることを学ぶ。また、条件から2次関数を決定できることを学ぶ。	
8	3. 2次関数と2次不等式 (前期期末試験)	(13)	2次関数のグラフとx軸の共有点の関係を判別式から判別する力を養い、さらに2次不等式の解の範囲についてグラフとの関係より考察できる力を養う。	
9				
10	4章 図形と計量 1. 三角比	20 (8)	正弦(サイン)・余弦(コサイン)・正接(タンジェント)の意味を理解し、三角比の表を用いて、長さや高さなど身近なものの計量に利用できることを学ぶ。また、三角比の相互関係について学ぶ。	
11	2. 三角比への応用 (後期中間試験)	(12)	三角比を鈍角に拡張し、三角比の値から角度を求めることを学ぶ。正弦定理、余弦定理、面積の公式を理解し、三角形の計量に応用していく力を養う。	
12	第2章 集合と命題	8	集合の包含関係、部分集合、共通部分と和集合など意味と使い方を学ぶ。集合の包含関係や逆、裏、対偶など利用し、命題の真偽を判定することを学ぶ。	
1	第5章 データの分析	11	データの平均値、偏差、分散、標準偏差を理解し、それらを求めることを学ぶ。平均値、偏差、分散、標準偏差、散布図、相関係数を用いてデータの散らばりなどの特性を考察する力を養う。	
2			生活の中の具体的な事象において、仮説検定の考え方を理解し、その仮説の妥当性について判断や考察する力を養う。	
3				
合計時数		86		

No.

2023 年度 数学 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	数学 I	単位数	3	週時間数	3	年次・コース・組	1 年次・探究
使用教材	教科書: NEXT 数学 I 問題集: CONNECT 数学 I + A						

目 標	数と式、2次関数、集合と論証、図形と計量、データの分析について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を身につける。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ 3 公式・定理を体系的に理解し、問題の解決に向けてそれらを有効に活用することができる	身の回りの事象から問題を見だし、様々な角度から考察し、解決することができ、それらを論理的に表現できる。	様々な問題に幅広く目を向け、その解決に向け、数学的論拠に基づき積極的に取り組むことができる。
	ステップ 2 基本的な公式、定理を複数結びつけて考えることができる。	身の回りの事象の解決に数学的考察を取り入れることができ、それらを的確に表現できる。	基本的な知識を組み合わせ、論理的に問題の解決に向け取り組むことができる。
	ステップ 1 基本的な公式、定理を用いて問題を考えることができる。	身の回りの事象に数学的考察が用いられることを知り、それらを表現することができる。	なぜその解法で解けるのか疑問を持って取り組むことができる。
評価方法	授業時の観察、定期試験、ホップテスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、ホップテスト、課題テスト、課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲、課題の提出状況、振り返りシート、自己評価シート

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、グループ学習、各自の解法の発表会などを行い、自ら進んで参加していく授業形態となります。思考力・表現力・判断力を問う問題も多く題材にする予定です。

担当者より

プリントの穴埋めや授業内容など予習をして臨むこと。その内容をより深く考えながら受けることができます。復習を行い確実に知識や技能を定着させること。課題は日々出題されるので、それらを利用し、効率よく復習を行って下さい。課題を深く掘り下げたり、応用問題を見つけて積極的に取り組むなどし、各自の力を向上させて下さい。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	1章 数と式 1. 式の計算	19 (7)	多項式、単項式の用語を理解し、目的に応じて式を多角的に捉えたり、展開や変形する力を養う。また、式を整理したり、置き換えを用いて因数分解の様々なやり方を学ぶ。	
5	2. 実数 (前期中間試験Ⅰ)	(5)	自然数、整数、有理数、無理数、実数の意味を理解し、根号のついた式の有理化や絶対値の意味、処理の仕方を学ぶ。	
6	3. 1次不等式 3章 2次関数 1. 2次関数とグラフ (前期中間試験Ⅱ)	(7) 28 (8)	不等号の持つ意味を理解し、1次不等式の解法を学ぶ。更に連立不等式の解法に拡張する。 2次関数の特徴を理解し、式を変形し頂点を求め、そのグラフ(放物線)を書くことを学ぶ。	
7	2. 2次関数の値の変化	(7)	2次関数のグラフを利用して関数の最大値、最小値を求めることを学ぶ。また、条件から2次関数を決定できることを学ぶ。	
8	3. 2次関数と2次不等式 (前期期末試験)	(13)	2次関数のグラフとx軸の共有点の関係を判別式から判別する力を養い、さらに2次不等式の解の範囲についてグラフとの関係より考察できる力を養う。	
9				
10	4章 図形と計量 1. 三角比	20 (8)	正弦(サイン)・余弦(コサイン)・正接(タンジェント)の意味を理解し、三角比の表を用いて、長さや高さなど身近なものの計量に利用できることを学ぶ。また、三角比の相互関係について学ぶ。	
11	2. 三角比への応用 (後期中間試験)	(12)	三角比を鈍角に拡張し、三角比の値から角度を求めることを学ぶ。正弦定理、余弦定理、面積の公式を理解し、三角形の計量に応用していく力を養う。	
12	第2章 集合と命題	8	集合の包含関係、部分集合、共通部分と和集合など意味と使い方を学ぶ。集合の包含関係や逆、裏、対偶など利用し、命題の真偽を判定することを学ぶ。	
1	第5章 データの分析	11	データの平均値、偏差、分散、標準偏差を理解し、それらを求めることを学ぶ。平均値、偏差、分散、標準偏差、散布図、相関係数を用いてデータの散らばりなどの特性を考察する力を養う。	
2			生活の中の具体的な事象において、仮説検定の考え方を理解し、その仮説の妥当性について判断や考察する力を養う。	
3				
合計時数		86		

No.

科目	数学A	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年次・一般
使用教材	教科書：NEXT数学A 問題集：CONNECT 数学 I + A						

目 標	場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を身につける。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ3 ↑ 公式・定理を体系的に理解し、問題の解決に向けてそれらを有効に活用することができる	身の回りの事象から問題を見だし、様々な角度から考察し、解決することができ、それらを論理的に表現できる。	様々な問題に幅広く目を向け、その解決に向け、数学的論拠に基づき積極的に取り組むことができる。
	ステップ2 基本的な公式、定理を複数結びつけて考えることができる。	身の回りの事象の解決に数学的考察を取り入れることができ、それらを的確に表現できる。	基本的な知識を組み合わせ、論理的に問題の解決に向け取り組むことができる。
	ステップ1 基本的な公式、定理を用いて問題を考えることができる。	身の回りの事象に数学的考察が用いられることを知り、それらを表現することができる。	なぜその解法で解けるのか疑問を持って取り組むことができる。
評価方法	授業時の観察、定期試験、ホップテスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、ホップテスト、課題テスト、課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲、課題の提出状況、振り返りシート、自己評価シート

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、グループ学習、各自の解法の発表などを行い、自ら進んで参加していく授業形態となります。

担当者より

プリントの穴埋めや授業内容など予習をして臨むこと。その内容をより深く考えながら受けることができます。授業は集中し内容をしっかり理解して下さい。また、復習を行い確実に知識や技能を定着させて下さい。課題は日々出題されるので、それらを利用し、効率よく復習を行って下さい。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	1章 場合の数と確率	27	場合の数を求めるための基本的な考え方を理解する。	
5	1. 場合の数 (前期中間試験Ⅰ)	(12)	ベン図や樹形図を利用し、場合の数を正確に求めることを学ぶ。 順列、組合せの考え方、求め方、記号などを学び、様々な場合についての総数を求める力を養う。	
6	2. 確率 (前期中間試験Ⅱ)	(15)	確率の意味や表し方、性質を学ぶ。場合の数の求め方を活用し、様々な事象の確率を求める力を養う。 独立な確率、反復試行における確率、条件付き確率など、様々な事象を考え、それらの値の求め方を学ぶ。また、期待値の考え方、求め方を学ぶ。	
7				
8	2章 図形の性質	21	線分の内分・外分、三角形について外心・内心・重心について理解し、それらを用いた問題についての考え方を学ぶ。	
9	1. 平面図形	(15)	チェバの定理、メネラウスの定理、円周角の定理、方べきの定理など三角形や円に関わる定理を証明し、また、辺の長さや角の大きさなどの求め方を学ぶ。 図形の性質を理解し、ルールに従い作図をすることができる。	
10	2. 空間図形	(6)	空間における直線の位置関係、なす角について学ぶ。多面体の性質について学び、面、頂点、辺の数についてどのような関係が成り立つのか考える。	
11				
12	3章 数学と人間の活動	20	整数について、約数・倍数の定義、素因数分解を学び、それらが日常生活に活用されていることを学ぶ。 整数の割り算の定義を理解し、余りの性質などを利用して問題についての考え方を学ぶ。 ユークリッドの互除法の考え方を理解し、それをを用いた問題の考え方を学ぶ。また、それを1次不定方程式の解を求める方法に用いることを学ぶ。 記数法、 n 進法の考え方を理解し、活用することを学ぶ。 平面と空間における座標の考え方を理解し、距離の考え方、求め方を学ぶ。 様々なゲームやパズルについて、論理的に考えながら、ルールや勝敗についての考え方を学ぶ。	
1				
2				
3				
合計時数		68		

No.

科目	数学A	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年次・探究
使用教材	教科書：NEXT数学A 問題集：CONNECT 数学 I + A						

目 標	場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を身につける。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	ステップ3 ↑ 公式・定理を体系的に理解し、問題の解決に向けてそれらを有効に活用することができる	身の回りの事象から問題を見だし、様々な角度から考察し、解決することができ、それらを論理的に表現できる。	様々な問題に幅広く目を向け、その解決に向け、数学的論拠に基づき積極的に取り組むことができる。
	ステップ2 基本的な公式、定理を複数結びつけて考えることができる。	身の回りの事象の解決に数学的考察を取り入れることができ、それらを的確に表現できる。	基本的な知識を組み合わせ、論理的に問題の解決に向け取り組むことができる。
	ステップ1 基本的な公式、定理を用いて問題を考えることができる。	身の回りの事象に数学的考察が用いられることを知り、それらを表現することができる。	なぜその解法で解けるのか疑問を持って取り組むことができる。
評価方法	授業時の観察、定期試験、ホップテスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、ホップテスト、課題テスト、課題レポート	授業に取り組む姿勢や意欲、課題の提出状況、振り返りシート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、グループ学習、各自の解法の発表などを行い、自ら進んで参加していく授業形態となります。思考力・表現力・判断力を問う問題も多く題材にする予定です。

担当者より

プリントの穴埋めや授業内容など予習をして臨むこと。その内容をより深く考えながら受けることができます。復習を行い確実に知識や技能を定着させて下さい。課題は日々出題されるので、それらを利用し、効率よく復習を行って下さい。課題を深く掘り下げたり、応用問題を見つけて積極的に取り組むなどし、各自の力を向上させて下さい。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	1章 場合の数と確率	27	場合の数を求めるための基本的な考え方を理解する。	
5	1. 場合の数 (前期中間試験Ⅰ)	(12)	ベン図や樹形図を利用し、場合の数を正確に求めることを学ぶ。 順列、組合せの考え方、求め方、記号などを学び、様々な場合についての総数を求める力を養う。	
6	2. 確率 (前期中間試験Ⅱ)	(15)	確率の意味や表し方、性質を学ぶ。場合の数の求め方を活用し、様々な事象の確率を求める力を養う。 独立な確率、反復試行における確率、条件付き確率など、様々な事象を考え、それらの値の求め方を学ぶ。また、期待値の考え方、求め方を学ぶ。	
7				
8	2章 図形の性質	21	線分の内分・外分、三角形について外心・内心・重心について理解し、それらを用いた問題についての考え方を学ぶ。	
9	1. 平面図形	(15)	チェバの定理、メネラウスの定理、円周角の定理、方べきの定理など三角形や円に関わる定理を証明し、また、辺の長さや角の大きさなどの求め方を学ぶ。 図形の性質を理解し、ルールに従い作図をすることができる。	
10	2. 空間図形	(6)	空間における直線の位置関係、なす角について学ぶ。多面体の性質について学び、面、頂点、辺の数についてどのような関係が成り立つのか考える。	
11				
12	3章 数学と人間の活動	20	整数について、約数・倍数の定義、素因数分解を学び、それらが日常生活に活用されていることを学ぶ。 整数の割り算の定義を理解し、余りの性質などを利用して問題についての考え方を学ぶ。 ユークリッドの互除法の考え方を理解し、それをを用いた問題の考え方を学ぶ。また、それを1次不定方程式の解を求める方法に用いることを学ぶ。 記数法、 n 進法の考え方を理解し、活用することを学ぶ。 平面と空間における座標の考え方を理解し、距離の考え方、求め方を学ぶ。 様々なゲームやパズルについて、論理的に考えながら、ルールや勝敗についての考え方を学ぶ。	
1				
2				
3				
合計時数		68		

科目	物理基礎	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次
使用教材	新編 物理基礎(数研出版) 新課程 物理基礎 学習ノート(数研出版)						

目 標	(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ 3 学習した物理の基本的な概念や原理・法則を正しく理解し、その後の学習や生活の中で新しい事象の解釈に応用している。 推論、実験、検証の過程で科学的な考え方・方法を用い、科学的に探究するために必要な観察・事件などに関する基本的な技能を正しく身に付けている。	課題を遂行するにあたり、科学的・論理的に思考し、判断している。 課題の設定理由、研究課程および自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく工夫して相手に伝えることができる。	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、理解しようとしている。 物理的な事物・現象に対する気づきから課題を設定し解決しようとする態度を身につけている。
	ステップ 2 学習した物理の基本的な概念や原理・法則を正しく理解している。 科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を正しく身に付けている。	課題を遂行するにあたり、科学的・論理的に思考している。 課題の設定理由、研究課程および自らの考えを的確・簡潔に相手に伝えることができる。	物理的な事物・現象に対して関わり、理解しようとしている。 物理的な事物・現象に対する課題を解決しようとする態度を身につけている。
	ステップ 1 学習した物理の基本的な概念や原理・法則を理解している。 科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	課題を遂行するにあたり、科学的に思考している。 課題の設定理由、研究課程および自らの考えを相手に伝えることができる。	物理的な事物・現象を理解しようとしている。 物理的な事物・現象に対する課題に気づこうとしている。
評価方法	定期試験 授業内の発言や問題に対する答え 実験やグループ活動	定期試験での論述問題 発表内容と発表の仕方 実験等の報告書	学習に対する態度 自己評価・相互評価の内容 課題や報告書の提出 実験やグループ活動での参加態度

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

・授業の中に実験・観察の場面や話し合いなどのグループ活動の場面を設定する。 ・定期試験ごとに学習内容の振り返りや自己評価・相互評価を行う。 ・定期試験の際に課題(学習ノートや授業ノートなど)を提出する。

担当者より

・自然界や生活の中で起こる身のまわりの現象に関心をもち、根気強く考え続ける姿勢が必要となる。 ・物理量を表したりデータを扱う際には数値処理能力が必要となる。数学の基礎を学習の中で活用していく。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	ガイダンス 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	11	【内容】 ・速度 ・加速度 ・落体の運動	知識・技能 ・等速直線運動の式およびx-t図、v-t図を理解する。 ・直線上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解する。 ・等加速度運動を表す式を理解し運用する。 思考力・判断力・表現力 ・動く観測者から見た場合の、観測者と同一直線上を動く物体の運動のようすを説明する。 ・等加速度直線運動する物体のようすについて説明する。 主体的に取り組む態度 ・日常の運動から、速さ、時間、進む距離についての関係に興味をもち、速さと速度の違いや、相対速度の意味や使い方を理解しようとする。	
5	<前期中間試験Ⅰ>				
6	第2章 運動の法則 <前期中間試験Ⅱ>	9	【内容】 ・力とそのはたらき ・力のつりあい ・運動の法則 ・摩擦を受ける運動 ・液体や気体から受ける力	知識・技能 ・注目する物体にはたらく力を指摘でき、つりあいの式を立てる。 ・物体が力を受けるとき、運動状態はどのようになるか、物体の運動状態からどのような力がはたらいているか指摘する。 思考力・判断力・表現力 ・慣性の法則、運動方程式が理解でき、問題解決にあたって式を正しく運用する。 主体的に取り組む態度 ・物体の運動状態は、受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心をもち、理解しようとする。	
7 8	第3章 仕事と力学的エネルギー	13	【内容】 ・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギーの保存	知識・技能 ・仕事、仕事率を計算して求める。 ・さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができる。 ・力学的エネルギー保存則が成りたつための条件を判断する。 思考力・判断力・表現力 ・運動エネルギー、位置エネルギーについて説明する。 ・力学的エネルギー保存則を用いて、運動を定性的に考え説明する。 主体的に取り組む態度 ・力学的エネルギー保存則について興味関心をもち、理解しようとする。	
9	<前期期末試験>				
10	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	15	【内容】 ・熱と物質の状態 ・熱と仕事	知識・技能 ・温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などを正しく理解する。 ・仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解する。 思考力・判断力・表現力 ・比熱の大きさから、物質の温まりやすさを類推する。 ・日常的な現象を熱と仕事の関係をふまえて説明する。 主体的に取り組む態度 ・熱にかかわる現象について興味関心をもち、理解しようとする。	
11	第3編 波 第1章 波の性質 <後期中間試験>		【内容】 ・波と媒質の運動 ・重ね合わせの原理 ・音の性質 ・発音体の振動と共振・共鳴	知識・技能 ・波の発生原理や基本事項を理解する。 ・縦波と横波の違いを理解する。 ・波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解する。 ・音の波としての性質を理解する。 ・弦や気柱の振動と音の高さの関係を理解する。 思考力・判断力・表現力 ・波の伝わるようすを、グラフで表現する。 ・波の反射について、その違いを明確に説明する。 ・倍音とはどのような振動数の音であるかを説明する。 主体的に取り組む態度 ・身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとする。 ・身近な音の現象に興味をもち、基本事項について理解しようとする。	
12	第2章 音				
1 2 3	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 第2章 磁場と交流 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 <後期期末試験>	17	【内容】 ・電気の性質 ・電流と電気抵抗 ・電流とエネルギー ・電流と磁場 ・交流と電磁波 ・エネルギーの移り変わり ・エネルギー資源と発電	知識・技能 ・オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解する。 ・ジュールの法則について理解する。 思考力・判断力・表現力 ・電気回路における、接続ごとの電流、電圧の大きさについて説明する。 ・ジュール熱について、電流と電圧とどのような関係にあるか説明する。 主体的に取り組む態度 ・電気回路において、抵抗に加わる電圧と流れる電流の値がどのようなか、主体的に考える。	
合計時数		65			

No.

2023 年度 理 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	生物基礎	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年次
使用教材	生物基礎 東京書籍 リードα 生物基礎 数研出版 新課程版 スクエア最新図説生物 第一学習社						

目 標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	ステップ 3 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	ステップ 2 生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、内容を振り返るなど、科学的に探究しようとしている。
	ステップ 1 生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。	生物や生物現象から問題を見だし、観察、実験などを行い、得られた結果を表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に関して、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期試験 レポート課題 授業内の発言や問題に対する答え 自己評価・相互評価の内容	定期試験での論述問題 発表やグループでの話し合い レポート課題 自己評価・相互評価の内容	単元の振り返り 自己評価・相互評価の内容 学習ノートの提出

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

- ・各クラス毎に行う。
- ・授業の中に実験観察や話し合いの場面を設定する。
- ・大きなまとまり毎に学習内容の振り返りおよび自己評価を行う。
- ・生徒実験の際にレポートを作成する。
- ・定期テストの際に学習ノートおよび授業ノートを提出する。

担当者より

生物基礎では生物のからだで起きている様々な現象やしぐみについて学ぶ。
特に最も身近な生物であるヒトについてしっかり学び、自分自身に対する理解を深める。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数	
4	第1章 生物の特徴	前期 中間Ⅰ まで 10	・生物の多様性・共通性と その由来について ・生物の共通性としての細胞、 その構造と特徴について ・生命活動と代謝・エネルギーの 関わりについて	知識・技能 ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性、生物とエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解する。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。		
5		前期 中間Ⅱ まで 8	・ATPの構造と特徴、役割について ・呼吸や光合成について ・生物を介したエネルギーの流れについて ・酵素の性質と役割について	思考・判断・表現 ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物の特徴を見出して表現する。		
6			主体的に取り組む態度 ・生物の特徴に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。			
7	第2章 遺伝子とそのはたらき	前期 期末 まで 12	・遺伝子の本体DNAの構造や性質について ・DNA研究の歴史について ・遺伝情報の複製・分配の仕組みについて ・転写、翻訳といった遺伝情報の発現について ・タンパク質の構造や性質について ・遺伝情報と遺伝子、ゲノムについて	知識・技能 ・遺伝子とその働きについて、遺伝情報とDNA、遺伝情報とタンパク質の合成の基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。		
8				思考・判断・表現 遺伝子とその働きについて、観察、実験などを通して探究し、遺伝子とその働きの特徴を見出して表現している。		主体的に取り組む態度 ・遺伝子とその働きに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。
9						
10	第3章 ヒトの体内環境の維持	後期 中間 まで 14	・神経系や内分泌系といった体内での情報伝達の仕組みについて ・体内環境の維持のしくみについて ・血液や血管といった循環系について ・自然免疫、適応免疫と病気の関わりについて	知識・技能 ・ヒトの体の調節について、神経系と内分泌系による調節、免疫を理解する。 ・観察、実験などに関する技能を身に付ける。		
11				思考・判断・表現 ・ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節および免疫などの特徴を見出して表現する。 主体的に学習に取り組む態度 ・ヒトの体の調節に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究する。		
12	第4章 生物の多様性と生態系	年度末 まで 16	・植生の特徴と、遷移のしくみについて ・世界や日本のバイオームの分布とその特徴について ・生態系の成り立ちや、生態系のバランスについて ・人間生活と生態系、生態系の保全について	知識・技能 ・生物の多様性と生態系について、植生と遷移、生態系とその保全を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。また、生態系の保全の重要性について認識する。		
1・2				思考・判断・表現 ・生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性および生物と環境との関係性を見出して表現する。		主体的に学習に取り組む態度 ・生物の多様性と生態系に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。
3						
合計時数		60				

科目	体育	単位数	3	週時間数	3	年次・コース・組	1 年次・一般、探究コース ／ 男女共習
使用教材	ステップアップ高校スポーツ2023（大修館書店） 新高等 保健体育（大修館書店）						

目 標	①運動の特性に応じた技能等及び健康・安全についての理解と運動や健康についての課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、思考・判断する力を身に付ける。 ②運動の合理的、計画的な実践を通して、運動技能を身に付け、自己の状況に応じて体力の向上を図る。 ③公正、協力、責任、参画、多様性などを大切にしようとする意欲と、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付ける。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ 3 運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの身に付けた技能を活用し発展できる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、主体的に思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者にわかりやすく伝えることができる。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持ち、主体的に運動に取り組むことができる。
	ステップ 2 運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けることができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持ち、自主的に運動に取り組むことができる。
	ステップ 1 運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解することができる。	生涯にわたって運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断することができる。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを大切にしたい気持ちを理解して、運動に取り組もうとしている。
評価方法	運動技能の観察、パフォーマンステスト、学習ノート、小テスト	授業の観察、学習ノート、事前・事後アンケート	授業の観察、学習ノート、事前事後アンケート、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

- ・2～3クラス合同で一斉授業、選択授業、グループ学習等を行い主体的な学習の取り組みとなります。
- ・陸上競技は5種目、球技Ⅰ・Ⅱは3型5種目、ダンス・球技Ⅲは2領域6種目からそれぞれ1つを選択します。また、球技Ⅰ・Ⅱは類型を変え、球技Ⅲは種目を変えて選択するようになります。
- ・ダンス授業は現代的なリズムのダンスをグループ毎創作し、年次発表会を行います。
- ・スキーはスキー場にて終日授業となり、前半は習熟度別グループ講習、後半は身に付けた基礎スキー技能を用いて仲間と総合滑降を行います。

担当者より

- ・運動の意義や技能の理論などを理解し、合理的、計画的な実践を通して、運動技能を身に付け、自己の状況に応じて体力の向上を図ろうとする取り組みができるようになること。
- ・公正、協力、責任、参画、多様性などを大切にしようとする意欲と生涯にわたって継続して運動に親しむための基礎を身に付けられるように取り組んでください。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	体づくり運動 体育理論Ⅰ	17	○オリエンテーション ○集団行動、体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画作成 ・集団行動のおもな行動様式を身に付ける。集団の約束や決まりを守って、仲間と協力し主体的に行動できるようにする。 ・手軽な運動や長距離走を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解する。また、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。 ○体育理論Ⅰ ・自主的な学習活動を通して、スポーツの歴史的発展と多様な変化、現代のスポーツの意義や価値について学ぶ。また、習得した知識を活用して、自己や社会についてのスポーツの意義や課題を発見し、よりよい解決に向けて、思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。	
5				
6		球技Ⅰ	15	
7				
8	陸上	12	○陸上競技は短距離走、長距離走、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げの5種目から1つ選択する。 ・自らが選択した種目の記録向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 ・自主的な学習を通して、自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向け練習の仕方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。	
9				
10	体育理論Ⅱ 球技Ⅱ	14	○体育理論Ⅱ ・自主的な学習活動を通して、スポーツの経済的効果と高潔さ、スポーツが環境や社会にもたらす影響について学ぶ。また、習得した知識を活用して、スポーツが環境や社会にもたらす影響や課題を発見し、よりよい解決に向けて、思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。 ○球技Ⅱはゴール型(サッカー・バスケットボール)、ネット型(バレーボール・ソフトテニス)、ベースボール型(ソフトボール)を開設し、球技Ⅰで選択した類型以外の種目を選択する。(学習内容は球技Ⅰと同じ)	
11				
12	球技Ⅲ ダンス	14	○球技またはダンスの2領域6種目から1つ選択する。 ・球技Ⅲはゴール型(サッカー・バスケットボール)、ネット型(バレーボール・バドミントン・卓球)を開設し、球技Ⅰ・Ⅱで選択した種目以外を選択する。(学習内容は球技Ⅰと同じ) ○ダンス ・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法を理解する。 ・イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができるようにする。 ・自主的な取り組みで自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	
1				
2	体育理論Ⅲ スキー	12	○体育理論Ⅲ ・自主的な学習活動を通して、運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害、スポーツの技術と技能及びその変化について学ぶ。また、習得した知識を活用して、運動やスポーツの効果的な学習の仕方について生じる自己や社会の課題のよりよい解決に向けて、思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。 ○スキー ・自然とのかかわりの深いスキーを通して、生命及び自然を尊重する精神・態度などを身に付ける。 ・生涯を通してスキーの楽しみ方、目的や環境の変化に対応して個人や仲間とともに継続的に学び合うことができる多様なかかわり方を学ぶ。 ・習熟度別グループ講習で基礎スキー技術を学び、スキー場の設定されたコースで、滑降、ターン、停止などの技能を用いて、斜面や雪の状態に適応して滑ることができるようにする。 ・天候の変わりやすい自然環境、自己や仲間の体力や技能の程度等に配慮し、健康・安全の確保ができるようにする。	
3				
合計時数		84		

No.

2023 年度 保健体育科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	保健	単位数	1	週時間数	1	年次・コース・組	1年次
使用教材	新高等 保健体育 大修館書店						
目 標	○個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解することで、現在及び将来の生活において健康・安全の課題に直面した場合に、的確な思考・判断に基づいて適切な意思決定を行い、自らの健康の管理や健康的な生活行動の選択及び健康的な社会環境づくりなどが実践出来るようになる為の基礎としての資質や能力を育成する。						

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ 3 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、それらの身につけた技能を個人だけでなく社会生活について総合的に理解できるようにするとともに活用し、発展できる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に表現することができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。
	ステップ 2 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、それらの技能を身につけることができる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を目指すことができる。
	ステップ 1 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めることができる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活について関心を持つことができる。
評価方法	ワークシートの記入内容、定期テスト等	授業内での観察、ワークシートの記入内容、定期テスト等	授業内での観察、ワークシートの記入内容

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

- ・1年次は、現代社会と健康・安全な社会生活の分野について理解を深める。
- ・授業内でのワークシートを記入させる。
- ・応急手当では、実習を行い、より実践的な活動を行うことで方法や手順を理解できるようにする。
- ・定期試験を通して、保健の知識及び技能を確実なものにする。
- ・ICTや黒板を使用し、基本的な知識を身に付けさせるとともに、グループワークなどを取り入れ、生徒同士で交流できる環境を作る。

担当者より

- ・現代社会と健康及び安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を 通して健康の考え方を深めること。
- ・健康課題を解決する学習活動を重視して、思考力、判断力、表現力等を育成していくとともに、「保健」で身に付けた知識及び技能を生かすことができるように健康に関する関心や意欲を高める。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	現代社会と健康	2	(1) 現代社会と健康 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を見つけることが出来るようする。 ア現代社会と健康の理解を深めること。 (ア) 健康の考え方 (イ) 現代の感染症とその予防 (ウ) 生活習慣病などの予防と回復	
5		3	国民の健康課題や健康の考え方と成り立ちについて理解を深め、一人一人が健康に関して深い認識を持ち、自らの健康を適切に管理し改善していくことが重要であることを理解できるようにする。 ヘルスプロモーションの考え方に基づいて現代社会の様々な健康課題に理解を深めるとともに、その解決に向けて思考・判断・表現ができるようにする。	
6		3	生活習慣病などの予防と回復 がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などは、生活習慣でリスクを軽減できることを理解し、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活が必要であることを理解できるようにする。	
7		2	がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、原因も様々であることを理解し、回復について情報を調べグループで共有できるようにする。グループ活動を通しがんについての理解を深めることができるようにする。	
8		1		
9		2		
前期期末考査で試験を実施する				
10	現代社会と健康	4	(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になることを理解できるようにする。薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、その対策には個人や社会環境への対策が必要であることを理解できるようにする。 喫煙の学習については、ブレインストーミングを行い、関わりの中でたばこの対策について話し合いができるようにする。 飲酒の学習については、アルコールパッチテストを用いて自分の体質を知り、アルコールについての理解を深めることが出来るようにする。また、アルコールハラスメントについても取り上げ、人生で1度は触れるであろうアルコールについての正しい知識を身につける。	
11		3	薬物乱用についてはICTを有効活用し、ビデオを上映したり、ケーススタディの学習を通して薬物についての正しい知識を身につけ、絶対に手を出さないようにする。	
12		3	(オ)精神疾患の予防と回復 精神の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であることを理解できるようにする。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。 イ 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現できるようにする。 現代社会の健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートに記述したりして筋道を立てて説明できるようにする。	
1	安全な社会生活	2	(2)安全な社会生活 安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。 (ア)安全な健康づくり 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取り組みが必要であることや交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境整備が関わること、交通事故には補償をはじめとした責任が生じることが理解できるようにする。 (イ)応急手当 日常で起こる障害や、熱中症などの疾病について基本的な応急手当の方法や手順があることを実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。心肺蘇生法については外部講師を呼び、実習をとして理解しAEDなどを用いても心肺蘇生法ができるようにする。	
2		2	イ 安全な社会生活について 安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避方法を考え、それらを表現することが出来るようにする。 安全な社会生活について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明できるようにする。	
3		1	年度末考査で試験を実施する	

2022 年度

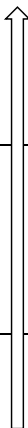
芸術 科 シラバス
(音楽)

山形県立長井高等学校

科目	音楽 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次、共通
使用教科書 副教材等	教科書「Tutti+」(教育出版) 副教材「The Basics of Music」(教育芸術)						

目 標	①諸活動に積極的に取り組み、それらに関わる様々なことを理解するとともに、表現に必要な基本的な能力を身につけましょう。 ②諸活動を通して、よさや美しさを味わいえるようになりましょう。 ③感性を高め生涯に渡り音楽を愛好する心情と豊かな情操を育て、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養いましょう。 ④年間を通して感染症の予防に努めながら、諸活動に積極的に取り組みましょう。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準 	ステップ 3 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
	ステップ 2 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解するとともに、音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	イメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む、音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るくしていく態度を養う。
	ステップ 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽について理解するとともに、音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	主体的に音楽活動に取り組む、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るくしていく態度を養う。
評価方法	授業時の取組み ペーパー試験 発表（実技試験） レポート 学習プリント・ノート	授業時の取組み ペーパー試験 発表（実技試験） レポート 学習プリント・ノート	授業時の取組み ペーパー試験 発表（実技試験） レポート 学習プリント・ノート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながら A, B, C の評価をし、またそれを基に 5 段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業、グループ学習を中心とします。

担当者より

通常授業では、予習・復習の必要はありません。授業では、失敗やミスを恐れず何事にも積極的に一生懸命に取り組ましましょう。分からないこと・できないことは、恥ずかしことではありません。そのままにせず、できる人やわかる人に質問してみましょう。学習内容の理解や練習が足りないと思った時や欠席してしまった時は、そのままにせず自分で補うようにしましょう。新型コロナウイルス感染症対策のため授業の進め方や計画を変更する場合があります。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	オリエンテーション 歌唱の基礎基本 楽典	前期中間Ⅰまで 10	年間の学習について 歌唱導入 (校歌、応援歌の練習も含む) 楽典の学習	・校歌と応援歌を積極的にかつ丁寧に歌えるように積極的に表現活動に取り組ましよう。3年間、そして卒業してからも歌い続けられるように暗譜しましよう。 ・歌唱時の姿勢や呼吸などについて理解し表現活動に活かすとともに、他者との調和を意識しながら積極的に歌いましよう。 ・楽典の音楽的基礎知識等についてこれまでの学びの確認をし、それらの知識や技術を表現活動に結びつけ、体験を通して理解を深めましよう。	前期中間Ⅰまで
5	器楽		楽箏演奏の基礎基本	・西洋音楽の違いを理解しながら活動を通し、日本音楽について理解を深め、表現活動に積極的に取り組みましよう。	
	筆記試験		既習事項の確認と復習 <中間試験Ⅰにて>	・既習事項を復習し、基本的知識をしっかりと身に付けましよう。	
6	器楽 様々なアンサンブルⅠ 実技テスト	前期中間Ⅱまで 8/18	楽箏合奏 レポート ヴォイスアンサンブルやリズムアンサンブルなど楽器を使用しないアンサンブル活動	・新たな奏法や効果についても理解し、意図をもって積極的に表現活動に活かしましよう。また、他者との調和を意識してアンサンブル活動で表現しましよう。 ・楽器を使用しないアンサンブル活動に積極的に取り組み、楽譜に出てくる記号を復習し理解を深めましよう。また、他者との調和を意識してアンサンブル活動で表現しましよう。	前期中間Ⅱまで ／
7・8	歌唱の基礎基本	前期期末まで 11/29	合唱コンクールまでの混成合唱やア・カベラの歌唱	・合唱コンクールへ向けた表現活動を通して、曲想やハーモニーを感じ、他者との調和を意識して楽しみながら積極的に表現しましよう。	前期期末まで ／
9	様々なアンサンブルⅡ		ヴォイスアンサンブルやリズムアンサンブルなど楽器を使用しないアンサンブル活動 実技テスト	・楽器を使用しないアンサンブル活動に積極的に取り組み、楽譜に出てくる記号を復習し理解を深めましよう。また、他者との調和を意識して創意工夫しながら表現しましよう。	
10	創作 歌唱		既習事項を踏まえた作曲 外国の音楽 実技テスト	・創作活動に積極的に取り組み、基本的な既習事項を確認しながら理解を深化させるとともに、他者との調和を意識しながらアンサンブル活動を楽しみましよう。 ・表現活動と鑑賞活動に積極的に取り組み、外国の様々な音楽について理解し、視野を広げましよう。	
11	器楽	後期中間まで 13/42	リコーダー・ギターの合奏	・器楽の表現活動に積極的に取り組み、基本的な奏法と既習事項を結び付け学習を深化させるとともに、器楽アンサンブルの楽しさを味わいましよう。	後期中間まで ／
12	様々なアンサンブルⅢ	年度末まで 19/61	実技テスト 創造的アンサンブル活動	・楽曲や編成等、様々な創意工夫を図りましよう。また、グループ毎に積極的にアンサンブル活動に計画的、かつ積極的に取り組みましよう。	年度末まで ／
1					
2・3	実技テスト		クラス発表会	・発表会を通し、表現形態の多様性を認識するとともに、鑑賞する観点を認識し音楽の良さを感じ取りましよう。	
合計時数		61			

2023 年度

芸術 科 シラバス
(美術)

山形県立長井高等学校

科目	美術 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次、共通
使用教材	教科書「美術1」（光村図書）						

目 標	①美術の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けましょう。 ②創造的な表現を工夫したり、美術のよさや美しさを深く味わったりすることが出来るようになります。 ③生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培いましょう。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ 3 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	ステップ 2 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じた表現方法で表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫などについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	ステップ 1 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解する。 ・造形的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じた表現方法で表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫などについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業、グループ学習など。

担当者より

常に美的関心を持ち、積極的に鑑賞する機会を設けたり、素材・資料を収集したり、生活に生かしたりする姿勢を持つ。 授業の準備をしっかりと(必要な用具、ふさわしい服装、資料材料集め、主題設定や構想を練ってくる)。 制作にあたっては、根気よく、より良いものを追求する姿勢。 授業を休まないことと、提出物の期限の厳守(成績に大きく関わる)。
--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	オリエンテーション スケッチ・資料収集	前期中間Ⅰまで	高校美術の意義と心構え 身近なものを描く スケッチの素材・資料収集	鑑賞を通して、美術のよさを見つけ味わい、興味関心を高め、学ぶ意欲を持つ。 身近にあるものを見つめ直し、よさや美しさを感じ取り表現方法を工夫して表す。 常にスケッチしたり、表現の基となる資料・素材を集める習慣を身に付ける。	前期中間Ⅰまで
5		9	静物デッサン 風景スケッチ 人物スケッチ コラージュ	モチーフの組み方、視点と構図、基本形、鉛筆デッサンの技法、明暗、質感の表現。 空間の広がりや奥行き、光と構図、透視図法、遠近法、四季・時間・天気・心情による見え方の違い、色鉛筆彩色。 自己や他者の内面を深く見つめる、性格・感情・自分にとっての存在・表情・ポーズ・背景・配色によるその人らしさの表現の工夫。 心の中のイメージを基に発想を広げ、想像の世界を表す。形・大きさ・質感の変化、存在し得ない空間の組み合わせ、コラージュの技法を使って超現実的な世界を表す。	／
6	油彩画に親しもう	前期中間Ⅱまで	主題の生成 構想	自分が感じた思い、よさや美しさなどから主体的に主題を生成する。 表現形式の選択と創造的な表現の構想を練る。	前期中間Ⅱまで
7・8			油彩の特性・扱い 表現方法の工夫 下塗り 本塗り 仕上げ塗り	油彩の特性・扱いを理解し、特性を生かした扱いに慣れる。 意図に応じた多様な表現方法を工夫する。 積極的に制作する意欲を持ち、意図的、計画的により良いものを粘り強く追求する姿勢。	
9		前期期末まで 11/28	作品の鑑賞	自他の作品のよさや美しさ、制作者の心情や意図による表現の工夫を見つけ味わう。	前期期末まで ／
10	人体を通して生き生きとした生命感を表現しよう（塑造による全身像）		人物クロッキー 主題の生成 構想	クロッキー（速描き）方法を理解し、技能を身に付ける。 『生命感』をどの様に捉えて、誰が 何をしているところを どのように表現するか、主体的に主題を生成する。 主題・意図に応じた人体のポーズを工夫し、立体で捉えるための資料を収集する。	
11		後期中間まで 13/41	人体デッサン 芯作り	立体で捉えるため、各方向からの人体デッサンをする。 人体の構造・骨格を理解し、芯材を作る。	後期中間まで ／
12			肉付け 仕上げ 鑑賞	可塑性に優れた粘土を使い、量感、動静、バランスなど立体が持つ特性を理解し表現をする。 デスクチュアを意識し、人間の存在感、生命感、モデルの人物や感情まで表現するように、意図的計画的に根気強く制作する。 自他の作品のよさを味わう。	
1	VIの展開		自分をブランド化し、デザインする	VIについて考察し、VIの重要性への理解を深める。 生活の中のVIに興味関心を持ち、構成する要素と効果を味わう。 自分のマーク、名前のデザインをする。	
2・3	美術史	年度末まで 19/60	美術と人間、東西の美術、19世紀以降の美術	大きな時代ごとの美術の特徴や様式、代表的な作品・作者、東洋西洋の関わりを理解し、美術文化を愛好する。	年度末まで ／
合計時数		60			

2023 年度

芸術 科 シラバス
(書道)

山形県立長井高等学校

科目	書道	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次、共通
使用教科書 副教材等	教科書「書道Ⅰ」（教育出版）						

目 標	①諸活動を通し、書道の様々な分野への興味を高め、基本的な知識・技術を身に付けましょう。 ②諸活動を通して書道の美しさを味わい捉えられるようになりましょう。 ③感性を高め生涯に渡り書道を愛好する心情と豊かな情操を育て、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養いましょう。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ 3 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
	ステップ 2 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の活動に取り組み、書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活していく態度を養う。
	ステップ 1 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、書の伝統と文化の意味や価値を考えることができるようにする。	主体的に書の活動に取り組み、書を愛好する心情を育むとともに、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活していく態度を養う。
評価方法	授業時の取り組み 実技提出作品 レポート	授業時の取り組み 実技提出作品 レポート	授業時の取り組み 実技提出作品 レポート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

一斉授業です。

担当者より

通常授業では、予習・復習の必要はありません。 提出作品が大切ですので、遅れても必ず提出しましょう。
--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	1. 導入	前期中間Ⅰまで 9 前期中間Ⅱまで 8/17	①オリエンテーション 書写から書道へ ②基本的な筆使いの確認	1 ・芸術としての書道の様々な分野について学習し、興味関心を高める。 ・用具等の学習。	前期中間Ⅰまで 前期中間Ⅱまで ／
5	2. 楷書		①書体の変遷と鑑賞 ②欧陽詢『九成宮醴泉銘』 ③虞世南『孔子廟堂碑』 ④顔真卿『顔氏家廟碑』 ⑤褚遂良『雁塔聖教序』 ⑥牛橛造像記 ⑦遜義鄭下碑	2 ・それぞれの古典の特徴を学習し、臨書する。 ・その後、倣書する。	
6					
7・8	3. 楷書の作品制作	前期末まで 11/28	古典の選択と制作	3 ・半切1／4の作品を制作する。 ・自分に合った古典を見つける。 →校外展に出品	前期末まで ／
9	4. 行書		精神を集中させ、細字に取り組む ①行書の基本・特徴 ②王羲之『蘭亭序』 ③顔真卿『争坐位稿』 ④空海『風信帖』 ⑤その他の行書	4 ・行書の筆使いを徹底した上で、作品製作をめざし学習する。 ・臨書の後、倣書する。 ・これまで書き溜めた折半紙制作品を全国展に応募する。	
10	5. 写経 6. 篆刻		自分の雅印制作	6 ・簡単な篆書の学習後、自分の印稿を考える。→（デザイン性）	
11		後期中間まで 13/41			後期中間まで ／
12	7. 隷書 8. 仮名 9. 実用書	年度末まで 19/60	『曹全碑』を主に 仮名の鑑賞と臨書 葉書の書き方、他	7 - 9 ・様々な文字の存在を知る。 ・仮名の地歴史と基本を学んだ上で、ちらし書きまで。	年度末まで ／
1	10. 作品製作 11. まとめ		古典臨書 自由創作	10 ・自分の筆力に合った古典を選択する。 →校外展に出品（来年度）	
2・3					
合計時数		60			

2022 年度

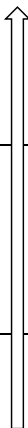
芸術 科 シラバス
(音楽)

山形県立長井高等学校

科目	音楽 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次、共通
使用教科書 副教材等	教科書「Tutti+」(教育出版) 副教材「The Basics of Music」(教育芸術)						

目 標	①諸活動に積極的に取り組み、それらに関わる様々なことを理解するとともに、表現に必要な基本的な能力を身につけましょう。 ②諸活動を通して、よさや美しさを味わいえるようになりましょう。 ③感性を高め生涯に渡り音楽を愛好する心情と豊かな情操を育て、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養いましょう。 ④年間を通して感染症の予防に努めながら、諸活動に積極的に取り組みましょう。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準 	ステップ 3 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
	ステップ 2 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解するとともに、音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	イメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む、音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るくしていく態度を養う。
	ステップ 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽について理解するとともに、音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	主体的に音楽活動に取り組む、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るくしていく態度を養う。
評価方法	授業時の取組み ペーパー試験 発表（実技試験） レポート 学習プリント・ノート	授業時の取組み ペーパー試験 発表（実技試験） レポート 学習プリント・ノート	授業時の取組み ペーパー試験 発表（実技試験） レポート 学習プリント・ノート

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながら A, B, C の評価をし、またそれを基に 5 段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業、グループ学習を中心とします。

担当者より

通常授業では、予習・復習の必要はありません。授業では、失敗やミスを恐れず何事にも積極的に一生懸命に取り組ましましょう。分からないこと・できないことは、恥ずかしことではありません。そのままにせず、できる人やわかる人に質問してみましょう。学習内容の理解や練習が足りないと思った時や欠席してしまった時は、そのままにせず自分で補うようにしましょう。新型コロナウイルス感染症対策のため授業の進め方や計画を変更する場合があります。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	オリエンテーション 歌唱の基礎基本 楽典	前期中間Ⅰまで 10	年間の学習について 歌唱導入 (校歌、応援歌の練習も含む) 楽典の学習	・校歌と応援歌を積極的にかつ丁寧に歌えるように積極的に表現活動に取り組ましよう。3年間、そして卒業してからも歌い続けられるように暗譜しましよう。 ・歌唱時の姿勢や呼吸などについて理解し表現活動に活かすとともに、他者との調和を意識しながら積極的に歌いましよう。 ・楽典の音楽的基礎知識等についてこれまでの学びの確認をし、それらの知識や技術を表現活動に結びつけ、体験を通して理解を深めましよう。	前期中間Ⅰまで
5	器楽		楽箏演奏の基礎基本	・西洋音楽の違いを理解しながら活動を通し、日本音楽について理解を深め、表現活動に積極的に取り組みましよう。	
	筆記試験		既習事項の確認と復習 <中間試験Ⅰにて>	・既習事項を復習し、基本的知識をしっかりと身に付けましよう。	
6	器楽 様々なアンサンブルⅠ 実技テスト	前期中間Ⅱまで 8/18	楽箏合奏 レポート ヴォイスアンサンブルやリズムアンサンブルなど楽器を使用しないアンサンブル活動	・新たな奏法や効果についても理解し、意図をもって積極的に表現活動に活かしましよう。また、他者との調和を意識してアンサンブル活動で表現しましよう。 ・楽器を使用しないアンサンブル活動に積極的に取り組み、楽譜に出てくる記号を復習し理解を深めましよう。また、他者との調和を意識してアンサンブル活動で表現しましよう。	前期中間Ⅱまで ／
7・8	歌唱の基礎基本	前期期末まで 11/29	合唱コンクールまでの混成合唱やア・カベラの歌唱	・合唱コンクールへ向けた表現活動を通して、曲想やハーモニーを感じ、他者との調和を意識して楽しみながら積極的に表現しましよう。	前期期末まで ／
9	様々なアンサンブルⅡ		ヴォイスアンサンブルやリズムアンサンブルなど楽器を使用しないアンサンブル活動 実技テスト	・楽器を使用しないアンサンブル活動に積極的に取り組み、楽譜に出てくる記号を復習し理解を深めましよう。また、他者との調和を意識して創意工夫しながら表現しましよう。	
10	創作 歌唱		既習事項を踏まえた作曲 外国の音楽 実技テスト	・創作活動に積極的に取り組み、基本的な既習事項を確認しながら理解を深化させるとともに、他者との調和を意識しながらアンサンブル活動を楽しみましよう。 ・表現活動と鑑賞活動に積極的に取り組み、外国の様々な音楽について理解し、視野を広げましよう。	
11	器楽	後期中間まで 13/42	リコーダー・ギターの合奏	・器楽の表現活動に積極的に取り組み、基本的な奏法と既習事項を結び付け学習を深化させるとともに、器楽アンサンブルの楽しさを味わいましよう。	後期中間まで ／
12	様々なアンサンブルⅢ	年度末まで 19/61	実技テスト 創造的アンサンブル活動	・楽曲や編成等、様々な創意工夫を図りましよう。また、グループ毎に積極的にアンサンブル活動に計画的、かつ積極的に取り組みましよう。	年度末まで ／
1					
2・3	実技テスト		クラス発表会	・発表会を通し、表現形態の多様性を認識するとともに、鑑賞する観点を認識し音楽の良さを感じ取りましよう。	
合計時数		61			

2023 年度

芸術 科 シラバス
(美術)

山形県立長井高等学校

科目	美術 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次、共通
使用教材	教科書「美術1」（光村図書）						

目 標	①美術の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けましょう。 ②創造的な表現を工夫したり、美術のよさや美しさを深く味わったりすることが出来るようになります。 ③生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培いましょう。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ 3 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	ステップ 2 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じた表現方法で表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫などについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	ステップ 1 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解する。 ・造形的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じた表現方法で表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫などについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物

※この評価基準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業、グループ学習など。

担当者より

常に美的関心を持ち、積極的に鑑賞する機会を設けたり、素材・資料を収集したり、生活に生かしたりする姿勢を持つ。 授業の準備をしっかりと(必要な用具、ふさわしい服装、資料材料集め、主題設定や構想を練ってくる)。 制作にあたっては、根気よく、より良いものを追求する姿勢。 授業を休まないことと、提出物の期限の厳守(成績に大きく関わる)。
--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	オリエンテーション スケッチ・資料収集	前期中間Ⅰまで	高校美術の意義と心構え 身近なものを描く スケッチの素材・資料収集	鑑賞を通して、美術のよさを見つけ味わい、興味関心を高め、学ぶ意欲を持つ。 身近にあるものを見つめ直し、よさや美しさを感じ取り表現方法を工夫して表す。 常にスケッチしたり、表現の基となる資料・素材を集める習慣を身に付ける。	前期中間Ⅰまで
5		9	静物デッサン 風景スケッチ 人物スケッチ コラージュ	モチーフの組み方、視点と構図、基本形、鉛筆デッサンの技法、明暗、質感の表現。 空間の広がりや奥行き、光と構図、透視図法、遠近法、四季・時間・天気・心情による見え方の違い、色鉛筆彩色。 自己や他者の内面を深く見つめる、性格・感情・自分にとっての存在・表情・ポーズ・背景・配色によるその人らしさの表現の工夫。 心の中のイメージを基に発想を広げ、想像の世界を表す。形・大きさ・質感の変化、存在し得ない空間の組み合わせ、コラージュの技法を使って超現実的な世界を表す。	／
6	油彩画に親しもう	前期中間Ⅱまで	主題の生成 構想	自分が感じた思い、よさや美しさなどから主体的に主題を生成する。 表現形式の選択と創造的な表現の構想を練る。	前期中間Ⅱまで
7・8			油彩の特性・扱い 表現方法の工夫 下塗り 本塗り 仕上げ塗り	油彩の特性・扱いを理解し、特性を生かした扱いに慣れる。 意図に応じた多様な表現方法を工夫する。 積極的に制作する意欲を持ち、意図的、計画的により良いものを粘り強く追求する姿勢。	
9		前期期末まで 11/28	作品の鑑賞	自他の作品のよさや美しさ、制作者の心情や意図による表現の工夫を見つけ味わう。	前期期末まで ／
10	人体を通して生き生きとした生命感を表現しよう（塑造による全身像）		人物クロッキー 主題の生成 構想	クロッキー（速描き）方法を理解し、技能を身に付ける。 『生命感』をどの様に捉えて、誰が 何をしているところを どのように表現するか、主体的に主題を生成する。 主題・意図に応じた人体のポーズを工夫し、立体で捉えるための資料を収集する。	
11		後期中間まで 13/41	人体デッサン 芯作り	立体で捉えるため、各方向からの人体デッサンをする。 人体の構造・骨格を理解し、芯材を作る。	後期中間まで ／
12			肉付け 仕上げ 鑑賞	可塑性に優れた粘土を使い、量感、動静、バランスなど立体が持つ特性を理解し表現をする。 デスクチュアを意識し、人間の存在感、生命感、モデルの人物や感情まで表現するように、意図的計画的に根気強く制作する。 自他の作品のよさを味わう。	
1	VIの展開		自分をブランド化し、デザインする	VIについて考察し、VIの重要性への理解を深める。 生活の中のVIに興味関心を持ち、構成する要素と効果を味わう。 自分のマーク、名前のデザインをする。	
2・3	美術史	年度末まで 19/60	美術と人間、東西の美術、19世紀以降の美術	大きな時代ごとの美術の特徴や様式、代表的な作品・作者、東洋西洋の関わりを理解し、美術文化を愛好する。	年度末まで ／
合計時数		60			

2023 年度

芸術 科 シラバス
(書道)

山形県立長井高等学校

科目	書道	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次、共通
使用教科書 副教材等	教科書「書道Ⅰ」（教育出版）						

目 標	①諸活動を通し、書道の様々な分野への興味を高め、基本的な知識・技術を身に付けましょう。 ②諸活動を通して書道の美しさを味わい捉えられるようになりましょう。 ③感性を高め生涯に渡り書道を愛好する心情と豊かな情操を育て、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養いましょう。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ 3 書の実現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
	ステップ 2 書の実現の方法や形式、多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の活動に取り組み、書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活していく態度を養う。
	ステップ 1 書の実現の方法や形式、多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、書の伝統と文化の意味や価値を考察することができるようにする。	主体的に書の活動に取り組み、書を愛好する心情を育むとともに、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活していく態度を養う。
評価方法	授業時の取り組み 実技提出作品 レポート	授業時の取り組み 実技提出作品 レポート	授業時の取り組み 実技提出作品 レポート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

一斉授業です。

担当者より

通常授業では、予習・復習の必要はありません。 提出作品が大切ですので、遅れても必ず提出しましょう。
--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	1. 導入	前期中間Ⅰまで 9 前期中間Ⅱまで 8/17	①オリエンテーション 書写から書道へ ②基本的な筆使いの確認	1 ・芸術としての書道の様々な分野について学習し、興味関心を高める。 ・用具等の学習。	前期中間Ⅰまで 前期中間Ⅱまで ／
5	2. 楷書		①書体の変遷と鑑賞 ②欧陽詢『九成宮醴泉銘』 ③虞世南『孔子廟堂碑』 ④顔真卿『顔氏家廟碑』 ⑤褚遂良『雁塔聖教序』 ⑥牛橛造像記 ⑦遜義鄭下碑	2 ・それぞれの古典の特徴を学習し、臨書する。 ・その後、倣書する。	
6					
7・8	3. 楷書の作品制作	前期末まで 11/28	古典の選択と制作	3 ・半切1／4の作品を制作する。 ・自分に合った古典を見つける。 →校外展に出品	前期末まで ／
9	4. 行書		精神を集中させ、細字に取り組む ①行書の基本・特徴 ②王羲之『蘭亭序』 ③顔真卿『争坐位稿』 ④空海『風信帖』 ⑤その他の行書	4 ・行書の筆使いを徹底した上で、作品製作をめざし学習する。 ・臨書の後、倣書する。 ・これまで書き溜めた折半紙制作品を全国展に応募する。	
10	5. 写経 6. 篆刻		自分の雅印制作	6 ・簡単な篆書の学習後、自分の印稿を考える。→（デザイン性）	
11		後期中間まで 13/41			後期中間まで ／
12	7. 隷書 8. 仮名 9. 実用書	年度末まで 19/60	『曹全碑』を主に 仮名の鑑賞と臨書 葉書の書き方、他	7 - 9 ・様々な文字の存在を知る。 ・仮名の地歴史と基本を学んだ上で、ちらし書きまで。	年度末まで ／
1	10. 作品製作 11. まとめ		古典臨書 自由創作	10 ・自分の筆力に合った古典を選択する。 →校外展に出品（来年度）	
2・3					
合計時数		60			

No.

検 印	校 長		教 頭		教 務	
--------	--------	--	--------	--	--------	--

2023 年度 英語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	英語コミュニケーション I	単位数	3	週時間数	3	年次・コース・組	1 年次・探究コース
使用教材	教科書 Heartening English Communication I 4技能学習Naviブック 参考書 Genius総合英語			担当者	今野 マリナ		

目 標	1. 英語で「聞く」、「読む」、「話す(やり取り・発表)」、「書く」の言語活動を通して、情報や考えなどを的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける。 2. 授業の予習・復習、課題への取組等により、言語活動を行う基盤となる文法、発音、語彙・表現等の知識・技能を身に付ける。語彙力については、年度末までに習得語数2800語以上を目指す。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	ステップ 3 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に論理的に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を論理性に注意して相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を論理性に注意して相手に伝えようとしている。
	ステップ 2 ・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に適切に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を適切に相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を適切に相手に伝えようとしている。
	ステップ 1 ・英語の特徴や決まりに関する基礎事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報や考え、気持ちなどを相手に伝える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を相手に伝えている。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況などに応じて、日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりするとともに、自分の気持ちや考え等を相手に伝えようとしている。
評価方法	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、課題テスト、小テスト	授業の取り組み姿勢や意欲、課題への取り組み、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

授業では主に語彙の確認、内容把握、重要事項の説明、音読、リテリングを行います。
一斉授業の他に、グループ学習、ペア学習、発表などを行います。

担当者より

授業は予習したことを復習する場、予習段階で不明だった点を理解していく場と考え、授業には必ず予習をして臨むこと。授業後は、学習内容の理解を深め、自分のものとして使うことができるようにするため、音読を中心とした復習をすること。

検 印	校 長		教 頭		教 務	
--------	--------	--	--------	--	--------	--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	Lesson 1 Bringing Out the Best in Himself	8	・英語を学習しながらNBA選手になる夢を実現した八村塁選手の半生を描いた物語文を読み、自主・自律の精神を養い、他者との協力を重んずる態度を養う。 ・現在形／過去形／進行形、未来表現等の言語材料を用いて、部活動に関するインタビューを聞いたり、友人にインタビューをしたり、インタビューした内容を書いたりすることができるようにする。	
5	Lesson 2 Hold On, Anzu! (前期中間試験Ⅰ)	8 1	・人間の心理や行動の特徴を利用し、創造的にポイ捨てをなくす方法を述べた論証文を読み、公共の精神に基づき、主体的に社会に参画する態度を養う。 ・さまざまな受動態(be動詞＋過去分詞)、前置詞等の言語材料を用いて、ポイ捨てを減らす方法に関する会話を聞いたり、賛成・反対を表明し、決定にむけた意見交換をしたり、ポイ捨てを減らす方法を友人に話したり、質問文を考えて書いたりすることができるようにする。	
6	Lesson 3 We Can Make a Difference (前期中間試験Ⅱ)	8 1	・捨てられた小型犬が警察犬として活躍するまでを述べた物語文を読み、個人の価値を尊重し、その能力を伸ばす精神を培い、生命を尊ぶ態度を養う。 ・現在完了形／現在完了進行形、過去完了形／過去完了進行形等の言語材料を用いて、トイプードルの警察犬に対する生徒たちの感想を聞いたり、他の人のプレゼンテーションに質問をしたり、トイプードルの警察犬について感想を述べたり、プレゼンテーションの原稿を書いたりすることができるようにする。	
7	Lesson 4	8	・世界の人々が受けている気候変動の影響と、問題への取り組みについて述べた説明文・意見文を読み、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う。	
8	Creative Problem Solving		・助動詞・助動詞の過去形等の言語材料を用いて、CO2削減についての生徒たちの意見を聞いたり、CO2削減の取り組みについてグループで話し合ったり、世界各地の気候変動による影響を伝えたり、CO2削減対策に関する意見を書いたりすることができるようにする。	
9	Lesson 5 Canned Bread to Feed the World (前期期末試験)	8 1	・食糧廃棄問題の解決と飢餓地域への支援を可能とするシステムを構築したパン・アキモトの取り組みを述べた物語文を読み、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する精神を養う。 ・不定詞(to＋動詞の原形)／SVO＋to do、SV(知覚動詞・使役動詞)＋O＋動詞の原形等の言語材料を用いて、救世軍プロジェクトに関する会話を聞いたり、プロジェクトへの参加を勧める、それに対して返答したり、パンの缶詰に関する情報を整理して伝えたり、プロジェクトへの参加を勧めるメッセージを書いたりすることができるようにする。	
10	Lesson 6 Could We Have a Real Jurassic Park?	8	・恐竜再生の可能性について論じた説明文を読み、幅広い教養を身に付け、真理を求める態度や道徳心を養う。 ・動名詞(doing)、SVC(分詞)等の言語材料を用いて、恐竜再生に関する会話を聞いたり、恐竜再生について自分の意見を言ったり、恐竜再生の可能性について説明したり、恐竜再生について自分の意見を述べるパラグラフを書くことができるようにする。	
11	Lesson 7 Behind the Price Tag (後期中間試験)	8 1	・安価な衣類製造プロセスにおける労働者の実態を述べた説明文と問題に対して対立する二者の意見文を読み、正義と責任を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。 ・SVOC(分詞)、分詞構文等の言語材料を用いて、安価なシャツに関するミニ・ディベートを聞いたり、相手の意見に賛成・反対を表明し、理由を説明したり、講演内容とそれに対する異なる立場の主張を伝えたり、講演内容とそれに対する異なる立場の主張をパラグラフで書いたりすることができるようにする。	
12	Lesson 8 The World's Winter Festival	13	・世界の冬の祭りを比較し、その共通性について論じた説明文を読み、日本をはじめ他国の伝統や文化を尊重する精神を培う。 ・比較に関する表現、従属接続詞等の言語材料を用いて、冬の祭りに関する会話を聞いたり、相手の情報を確認しながらインタビューしたり、世界の祭りの共通性を論理的に伝えたり、祭りに参加するための申し込み用紙に必要事項を記入したりできるようにする。	
1	Lesson 9	12	・木々が大きな森となって繁栄するために互いに協力している科学的事実を述べた説明文を読み、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う。	
2	Talking Trees (後期期末試験)	1	・関係代名詞、関係副詞、関係代名詞の非制限用法等の言語材料を用いて、木のコミュニケーションに関する展示の感想を聞いたり、相手の発言の意図を確認しながら自分の意見を言ったり、木のコミュニケーション方法を説明したり、展示内容でもっとも印象に残ったことなどを書いたりすることができるようにする。	
合計時数		86		

No.

2023 年度 英語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	論理・表現 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次・一般コース
使用教材	教科書 Genius English Logic and Expression I 参考書 Genius総合英語						

目 標	1. 英語で「話す(やり取り・発表)」、「書く」の言語活動を通して、情報や考えなどを的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける。 2. 授業の予習・復習、課題への取組等により、言語活動を行う基盤となる文法、発音、語彙・表現等の知識・技能を身に付ける。語彙力については、年度末までに習得語数2800語以上を目指す。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ 3 ・論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。 ・日常的话题や社会的な話題について、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合う技能を身に付けている。	日常的话题や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合っている。	日常的话题や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して伝え合おうとしている。
	ステップ 2 ・相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる形式や表現を理解している。 ・日常的话题や社会的な話題について、自分の意見や考えを的確に伝え合う技能を身に付けている。	日常的话题や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や考えを的確に伝え合っている。	日常的话题や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や考えを的確に伝え合おうとしている。
	ステップ 1 ・相手に話したり書いたりして伝え合うために必要となる基本的な形式や表現を理解している。 ・日常的话题について、相手に分かりやすく伝える技能を身に付けている。	日常的话题について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手に分かりやすく伝えている。	日常的话题について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手に分かりやすく伝えようとしている。
評価方法	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、課題テスト、小テスト	授業時の観察、定期試験、パフォーマンステスト、課題テスト、小テスト	授業の取り組み姿勢や意欲、課題への取り組み、自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

授業では主に1時間目はUnitで出てくる文法事項の学習、2時間目は1時間目で学習したことを用いた言語活動を行います。一斉授業の他に、グループ学習、ペア学習、発表などを行います。

担当者より

授業は予習したことを復習する場、予習段階で不明だった点を理解していく場と考え、授業には必ず予習をして臨むこと。授業後は、学習内容の理解を深め、自分のものとして使うことができるようにするため、復習をすること。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	Unit 1 Introducing Yourself		文型SV, SVC, SVO, there 構文等の言語材料を用いて、英語で自己紹介をすることができる。	
	Unit 2 Talking about a Family Member or Friend	5	文型SVOO, SVOC等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて家族や友人の紹介を書くことができる。	
5	Unit 3 Talking about Your School		現在形, 現在進行形, 過去形, 過去進行形等の言語材料を用いて、海外の生徒に向けて自分たちの学校生活を紹介する原稿を書くことができる。	
	Unit 4 Making Plans for the Weekend	4	未来を表す表現等の言語材料を用いて、クラスメートとハイキングの計画について意見交換することができる。	
	(前期中間試験Ⅰ)	1		
	Unit 5 Sharing Experiences	2	現在完了形, 現在完了進行形, 過去完了形等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて自分の大切にしている物を紹介することができる。	
6	Unit 6 Learning Your Way around at School		助動詞(can, may, must, will, should, ought to)等の言語材料を用いて、海外の生徒に向けて学校のルールの説明を書くことができる。	
	Unit 7 Looking Back	4	助動詞(used to, would, had better, 〈助動詞+have+過去分詞〉)等の言語材料を用いて、中学の後輩に向けてアドバイスすることができる。	
	(前期中間試験Ⅱ)	1		
7	Unit 8 Recommending the Perfect Place to Go		受動態等の言語材料を用いて、観光客に向けて自分のおすすめする場所を案内する文を書くことができる。	
	Unit 9 Staying Healthy	4	不定詞(名詞的用法, 形容詞的用法, 副詞的用法, 否定, 意味上の主語, in order to, so as to)等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて高校生が抱える健康問題の解消策を提言することができる。	
	(夏期課題テスト)	1		
8	Unit 10 Thinking about Your Future	2	不定詞(〈SVO+to不定詞〉, 〈SVO+原形不定詞〉, 〈疑問詞+to不定詞〉, 〈seem [appear]+to不定詞〉)等の言語材料を用いて、クラスメートと進路について意見交換することができる。	
9	Unit 11 Japanese Educational Practices		動名詞等の言語材料を用いて、クラスメートと日本の学校習慣に対する賛否について意見交換することができる。	
	Unit 12 School Events	5	分詞等の言語材料を用いて、海外の友人に向けて学校行事について報告するメールを書くことができる。	
	(前期期末試験)	1		
10	Unit 13 Better Choices		比較表現等の言語材料を用いて、クラスメートと最適な交通手段について意見交換することができる。	
	Unit 14 A Person You Look up To	7	関係代名詞等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて尊敬する人を紹介する文章を書くことができる。	
	Unit 15 Extracurricular Activities		関係副詞等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて参加したボランティア活動あるいは職場体験について報告することができる。	
11	Unit 16 What Can We Do to Save Resources?		仮定法過去等の言語材料を用いて、クラスメートと水不足あるいはフードロスについて意見交換することができる。	
	Unit 17 What If It Had Never Happened?	6	仮定法過去完了等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて過去にあった印象的な出来事について話すことができる。	
	(後期中間試験)	1		
12	Unit 18 How Can We Protect the Earth?	3	接続詞(等位接続詞, 名詞節を導く接続詞)等の言語材料を用いて、クラスメートに向けて環境問題についての考えを述べる文章を書くことができる。	
	(冬期課題テスト)	1		
1	Unit 19 Can Technology Make the World a Better Place?	7	接続詞(時を表す接続詞, 理由・原因を表す接続詞, 結果・程度を表す接続詞, 目的を表す接続詞, 条件を表す接続詞, 譲歩を表す接続詞)等の言語材料を用いて、クラスメートと科学技術の発達の是非について意見交換することができる。	
2	Unit 20 What Do You Like about Japanese Culture?	7	名詞構文・無生物主語等の言語材料を用いて、日本について知りたい人に向けて日本文化を紹介する記事を書くことができる。	
	(後期期末試験)	1		
合計時数		63		

科目	家庭基礎	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次・一般コース 1～4 組
使用教材	家庭基礎（東京書籍）Live View（東京書籍）						

目 標	(1)人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 (2)学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育てる。 (3)家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ 3 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎的基本的な知識や技術を確実に身に付けている。	家庭や地域の生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫と創造する能力を身に付けている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとする実践的な態度を身に付けている。
	ステップ 2 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎的基本的な知識や技術を身に付けている。	家庭や地域の生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとしている。
	ステップ 1 家庭生活を向上させるために必要な、基礎的基本的な知識や技術を身に付けている。	家庭生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して考えている。	将来の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとしている。
評価方法	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・小テスト、定期考査	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・レポート、発表 ・定期考査	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・レポート、発表 ・定期考査

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

講義形式の授業の他に、グループワークや実験・実習など、自分たちで調べて、自分の考えをまとめ、発表する学習活動も多くあります。毎時間、学習プリントを使用します。プリントはすべて配布したファイルに綴じて下さい。予習・復習は必要ありませんので、授業の中でしっかりと考えて、新たな価値観を作り出し、よりよい生活のための行動変容を目指していきましょう。

担当者より

小中学校の家庭科では「家族の一員」としてどう生活にかかわるか、について学習しました。高校の家庭科では、「自分が主人公」としてどう生活を作っていくか、どう社会とつながっていくか、について学習します。「自分で自分の生活をつくる」、「生活をする人の視点から社会を見る」、この2つが、高校家庭科の目的であり、自立した大人になるために必要不可欠な力です。様々な情報が氾濫し、生活の安全性が脅かされつつある今日、性差に関わらず、すべての人が考えなければならない大切な力です。一緒にじっくりと学んでいきましょう。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4月	◇家庭科の学び方 【家族・社会との共生】	2	【 ねらい 】 人の一生を見通しながら、家族や家庭の在り方を知り、自分らしい人生を歩んでゆくために必要なことを考える。	
5月	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第4章 超高齢社会を生きる 第5章 共に生き、共に支える 第11章 これからの生活を創造する	8	【 内容 】 複数にまたがる章を横断的に捉え、「家庭生活を取り巻く社会問題」というテーマでポスターセッションを行う。 ・「標準家族の存在」と「家族の多様化」の矛盾から、様々な社会課題が表面化していることに気付く。 ・新聞記事や進路課発行の「読む」などを活用し、「家庭生活を取り巻く社会問題」を自分で探し、その背景や要因などを分析する。 ・自分が取り上げた社会問題に関して、教科書や資料集で現状を調査し、ポスターセッションをして内容を共有する。	
6月	【生活の自立】 第10章 持続可能な生活を営む	2	【 ねらい 】 カカオの児童労働を一例に、フェアトレードの考え方や企業社会的責任(CSR)について考える。	
7月		2	【 内容 】 ・チョコレートに関係している様々な立場についてのジグソー学習を通して、世界で起こっている問題の多くが、私たちの生活に起因していることに気づく。 ・環境や労働者の人権に配慮した食材を使用した調理実習(1回目)を行い、市場の動きを知り、自分たちができることを考える。	
8月	夏季休業	2		
9月	【生活の自立】 第6章 食生活をつくる	6	【 ねらい 】 現代の食生活の問題を知り、その問題を解決するための知識や技術を、実験や実習などを通して身につける。	
10月	前期末考査	8	【 内容 】 ・他教科での既習事項や栄養素などに関する理論学習と実験・実習を関係させ、日常生活での実践力につなげる。(調理実習2回目)(糖分測定実験) ・食物調理技術検定4級に合わせた内容で実技試験を行い、基礎的な調理技術の定着を図る。 ・グループ活動やペアワーク等を通して、自分の考えを深めたり広めたりしていく。 ・日本型食生活のよさを実感し、日本の食文化の継承する。(調理実習3回目)	
11月	【生活の自立】 第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む	6	【 ねらい 】 住居選択や家具購入などの疑似体験を通して、消費や契約における課題を認識し消費者として責任をもった行動をするための土台を作る。	
			【 内容 】 ・住宅情報誌や広告などを活用し、数年後の1人暮らしをイメージしながら部屋探し、空間設計、生活費の検討などをシミュレーションをする。 ・購入と契約、消費者の権利と責任について正しい知識を習得し、自立した消費者を目指す。	
12月	【生活の自立】 第7章 衣生活をつくる	8	【 ねらい 】 自分の生活と社会とのつながりに気付き、持続可能な衣生活に寄与するための方策を考える。	
1月		6	【 内容 】 ・便利な衣生活の裏側に目を向け、持続可能な衣生活を目指して、自分たちができることを考える。 ・既製服の選択や管理などの学び、手入れ方法の一つとして、簡単な制作を通して基本的な修繕技術を身に付ける。	
2月	【家族・社会との共生】 第3章 子どもと共に育つ	7	【 ねらい 】 ・子育てにおける親や社会の役割、乳幼児の特徴を理解し、自分が将来どのように子どもと関わるができるか想像できるようになる。 ・現代の子どもを取り巻く諸問題に目を向け、命と真剣に向き合う姿勢を身に付ける。	
3月	後期末考査	0	【 内容 】 ・簡単な保育体験を通して、親や社会が協力して子どもにかかわることの重要性を実感する。 ・DVDの視聴を通して、命の重みと特別養子縁組制度などの子どもの福祉について考える。	
合計時数		56		

No.

検 印	校 長		教 頭		教 務	
--------	--------	--	--------	--	--------	--

2023 年度 家庭 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	家庭基礎	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年次・探究コース5組
使用教材	家庭基礎（東京書籍）Live View（東京書籍）			担当者	安日 恵子		

目 標	(1)人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 (2)学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育てる。 (3)家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準 	ステップ3 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎的基本的な知識や技術を確実に身に付けている。	家庭や地域の生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫と創造する能力を身に付けている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとする実践的な態度を身に付けている。
	ステップ2 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎的基本的な知識や技術を身に付けている。	家庭や地域の生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとしている。
	ステップ1 家庭生活を向上させるために必要な、基礎的基本的な知識や技術を身に付けている。	家庭生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して考えている。	将来の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとしている。
評価方法	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・小テスト、定期考査	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・レポート、発表 ・定期考査	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・レポート、発表 ・定期考査

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

講義形式の授業の他に、グループワークや実験・実習など、自分たちで調べて、自分の考えをまとめ、発表する学習活動も多くあります。毎時間、学習プリントを使用します。プリントはすべて配布したファイルに綴じて下さい。予習・復習は必要ありませんので、授業の中でしっかりと考えて、新たな価値観を作り出し、よりよい生活のための行動変容を目指していきましょう。

担当者より

小中学校の家庭科では「家族の一員」としてどう生活にかかわるか、について学習しました。高校の家庭科では、「自分が主人公」としてどう生活を作っていくか、どう社会とつながっていくか、について学習します。「自分で自分の生活をつくる」、「生活をする人の視点から社会を見る」、この2つが、高校家庭科の目的であり、自立した大人になるために必要不可欠な力です。様々な情報が氾濫し、生活の安全性が脅かされつつある今日、性差に関わらず、すべての人が考えなければならない大切な力です。一緒にじっくりと学んでいきましょう。

検 印	校 長		教 頭		教 務	
--------	--------	--	--------	--	--------	--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4月	◇家庭科の学び方 【家族・社会との共生】	4	【 ねらい 】 人の一生を見通しながら、家族や家庭の在り方を知り、自分らしい人生を歩んでゆくために必要なことを考える。	
5月	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第4章 超高齢社会を生きる 第5章 共に生き、共に支える 第11章 これからの生活を創造する	6	【 内容 】 複数にまたがる章を横断的に捉え、「家庭生活を取り巻く社会問題」というテーマでポスターセッションを行う。 ・「標準家族の存在」と「家族の多様化」の矛盾から、様々な社会課題が表面化していることに気付く。 ・新聞記事や進路課発行の「読む」などを活用し、「家庭生活を取り巻く社会問題」を自分で探し、その背景や要因などを分析する。 ・自分が取り上げた社会問題に関して、教科書や資料集で現状を調査し、ポスターセッションをして内容を共有する。	
6月	【生活の自立】 第10章 持続可能な生活を営む	6	【 ねらい 】 カカオの児童労働を一例に、フェアトレードの考え方や企業社会的責任(CSR)について考える。	
7月		4	【 内容 】 ・チョコレートに関係している様々な立場についてのジグソー学習を通して、世界で起こっている問題の多くが、私たちの生活に起因していることに気づく。 ・環境や労働者の人権に配慮した食材を使用した調理実習(1回目)を行い、市場の動きを知り、自分たちにできることを考える。	
8月	夏季休業	2	【 ねらい 】 現代の食生活の問題を知り、その問題を解決するための知識や技術を、実験や実習などを通して身につける。	
9月	【生活の自立】 第6章 食生活をつくる	4	【 内容 】 ・他教科での既習事項や栄養素などに関する理論学習と実験・実習を関係させ、日常生活での実践力につなげる。(調理実習2回目)(糖分測定実験) ・食物調理技術検定4級に合わせた内容で実技試験を行い、基礎的な調理技術の定着を図る。 ・グループ活動やペアワーク等を通して、自分の考えを深めたり広めたりしていく。 ・日本型食生活のよさを実感し、日本の食文化の継承する。(調理実習3回目)	
10月	前期末考查	9		
11月	【生活の自立】 第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む	6	【 ねらい 】 住居選択や家具購入などの疑似体験を通して、消費や契約における課題を認識し消費者として責任をもった行動をするための土台を作る。	
			【 内容 】 ・住宅情報誌や広告などを活用し、数年後の1人暮らしをイメージしながら部屋探し、空間設計、生活費の検討などをシミュレーションをする。 ・購入と契約、消費者の権利と責任について正しい知識を習得し、自立した消費者を目指す。	
12月	【生活の自立】 第7章 衣生活をつくる	6	【 ねらい 】 自分の生活と社会とのつながりに気付き、持続可能な衣生活に寄与するための方策を考える。	
			【 内容 】 ・便利な衣生活の裏側に目を向け、持続可能な衣生活を目指して、自分たちにできることを考える。 ・既製服の選択や管理などの学び、手入れ方法の一つとして、簡単な制作を通して基本的な修繕技術を身に付ける。	
1月	ホームプロジェクトの実施	8	【ねらいと内容】 冬期休業中に、自分の生活の中から課題を見つけ、学んだ知識と技術を生かして、どうしたら解決できるか考え、解決の方法を計画・実践し、レポートにまとめる。休み明けの授業で、各自の実践を発表し共有する。	
2月	【家族・社会との共生】 第3章 子どもと共に育つ	2	【 ねらい 】 ・子育てにおける親や社会の役割、乳幼児の特徴を理解し、自分が将来どのように子どもと関わることができるか想像できるようになる。 ・現代の子どもを取り巻く諸問題に目を向け、命と真剣に向き合う姿勢を身に付ける。	
3月	後期末考查	3	【 内容 】 ・簡単な保育体験を通して、親や社会が協力して子どもにかかわることの重要性を実感する。 ・DVDの視聴を通して、命の重みと特別養子縁組制度などの子どもの福祉について考える。	
合計時数		60		

科目	家庭基礎	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年次・探究コース5組
使用教材	家庭基礎（東京書籍）Live View（東京書籍）						

目 標	(1)人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 (2)学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育てる。 (3)家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準 	ステップ3 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎的基本的な知識や技術を確実に身に付けている。	家庭や地域の生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫と創造する能力を身に付けている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとする実践的な態度を身に付けている。
	ステップ2 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎的基本的な知識や技術を身に付けている。	家庭や地域の生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとしている。
	ステップ1 家庭生活を向上させるために必要な、基礎的基本的な知識や技術を身に付けている。	家庭生活を見直し、改善すべき課題を見つけ、その解決を目指して考えている。	将来の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組もうとしている。
評価方法	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・小テスト、定期考査	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・レポート、発表 ・定期考査	・授業中の活動内容(振り返りシート、観察など) ・学習プリント ・レポート、発表 ・定期考査

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

講義形式の授業の他に、グループワークや実験・実習など、自分たちで調べて、自分の考えをまとめ、発表する学習活動も多くあります。毎時間、学習プリントを使用します。プリントはすべて配布したファイルに綴じて下さい。予習・復習は必要ありませんので、授業の中でしっかりと考えて、新たな価値観を作り出し、よりよい生活のための行動変容を目指していきましょう。

担当者より

小中学校の家庭科では「家族の一員」としてどう生活にかかわるか、について学習しました。高校の家庭科では、「自分が主人公」としてどう生活を作っていくか、どう社会とつながっていくか、について学習します。「自分で自分の生活をつくる」、「生活をする人の視点から社会を見る」、この2つが、高校家庭科の目的であり、自立した大人になるために必要不可欠な力です。様々な情報が氾濫し、生活の安全性が脅かされつつある今日、性差に関わらず、すべての人が考えなければならない大切な力です。一緒にじっくりと学んでいきましょう。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4月	◇家庭科の学び方 【家族・社会との共生】	4	【 ねらい 】 人の一生を見通しながら、家族や家庭の在り方を知り、自分らしい人生を歩んでゆくために必要なことを考える。	
5月	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第4章 超高齢社会を生きる 第5章 共に生き、共に支える 第11章 これからの生活を創造する	6	【 内容 】 複数にまたがる章を横断的に捉え、「家庭生活を取り巻く社会問題」というテーマでポスターセッションを行う。 ・「標準家族の存在」と「家族の多様化」の矛盾から、様々な社会課題が表面化していることに気付く。 ・新聞記事や進路課発行の「読む」などを活用し、「家庭生活を取り巻く社会問題」を自分で探し、その背景や要因などを分析する。 ・自分が取り上げた社会問題に関して、教科書や資料集で現状を調査し、ポスターセッションをして内容を共有する。	
6月	【生活の自立】 第10章 持続可能な生活を営む	6	【 ねらい 】 カカオの児童労働を一例に、フェアトレードの考え方や企業社会的責任(CSR)について考える。	
7月		4	【 内容 】 ・チョコレートに関係している様々な立場についてのジグソー学習を通して、世界で起こっている問題の多くが、私たちの生活に起因していることに気づく。 ・環境や労働者の人権に配慮した食材を使用した調理実習(1回目)を行い、市場の動きを知り、自分たちにできることを考える。	
8月	夏季休業	2	【 ねらい 】 現代の食生活の問題を知り、その問題を解決するための知識や技術を、実験や実習などを通して身につける。	
9月	【生活の自立】 第6章 食生活をつくる	4	【 内容 】 ・他教科での既習事項や栄養素などに関する理論学習と実験・実習を関係させ、日常生活での実践力につなげる。(調理実習2回目)(糖分測定実験) ・食物調理技術検定4級に合わせた内容で実技試験を行い、基礎的な調理技術の定着を図る。 ・グループ活動やペアワーク等を通して、自分の考えを深めたり広めたりしていく。 ・日本型食生活のよさを実感し、日本の食文化の継承する。(調理実習3回目)	
10月	前期末考査	9		
11月	【生活の自立】 第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む	6	【 ねらい 】 住居選択や家具購入などの疑似体験を通して、消費や契約における課題を認識し消費者として責任をもった行動をするための土台を作る。	
			【 内容 】 ・住宅情報誌や広告などを活用し、数年後の1人暮らしをイメージしながら部屋探し、空間設計、生活費の検討などをシミュレーションをする。 ・購入と契約、消費者の権利と責任について正しい知識を習得し、自立した消費者を目指す。	
12月	【生活の自立】 第7章 衣生活をつくる	6	【 ねらい 】 自分の生活と社会とのつながりに気付き、持続可能な衣生活に寄与するための方策を考える。	
1月	ホームプロジェクトの実施	8	【 内容 】 ・便利な衣生活の裏側に目を向け、持続可能な衣生活を目指して、自分たちにできることを考える。 ・既製服の選択や管理などの学び、手入れ方法の一つとして、簡単な制作を通して基本的な修繕技術を身に付ける。 【ねらいと内容】 冬期休業中に、自分の生活の中から課題を見つけ、学んだ知識と技術を生かして、どうしたら解決できるか考え、解決の方法を計画・実践し、レポートにまとめる。休み明けの授業で、各自の実践を発表し、発表者	
2月	【家族・社会との共生】 第3章 子どもと共に育つ	2	【 ねらい 】 ・子育てにおける親や社会の役割、乳幼児の特徴を理解し、自分が将来どのように子どもと関わることができるか想像できるようになる。 ・現代の子どもを取り巻く諸問題に目を向け、命と真剣に向き合う姿勢を身に付ける。	
3月	後期末考査	3	【 内容 】 ・簡単な保育体験を通して、親や社会が協力して子どもにかかわることの重要性を実感する。 ・DVDの視聴を通して、命の重みと特別養子縁組制度などの子どもの福祉について考える。	
合計時数		60		